

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 687 集

サンニヤ I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

2018

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財) 岩手県文化振興事業団

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 687 集

サンニヤ I 遺跡発掘調査報告書

2018

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財) 岩手県文化振興事業団

サンニヤ I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

序

岩手県には、一万箇所を越す貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。これらは地域の風土と歴史を生み出した遺産であり、岩手県の歴史や文化、伝統を深く理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、これらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、自然環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターは、設立以来岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設事業に関連して、平成28年度に発掘調査した洋野町サンニヤⅠ遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。今回の調査によって、縄文時代後期・晩期の資料を得ることができました。本報告書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、洋野町教育委員会をはじめとする関係各位に対し深く感謝の意を表します。

平成30年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 菅野洋樹

例 言

- 1 本報告書は、岩手県九戸郡洋野町種市第25地割33-1に所在するサンニヤ I 遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡は三陸沿岸道路建設事業に伴う緊急発掘事業である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の調整を経て、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所から委託を受けた、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが調査を行った。
- 3 岩手県遺跡台帳における遺跡番号と今回の調査における遺跡略号は以下のとおりである。
遺跡番号：IF48-2128 遺跡略号：SNI-16
- 4 発掘調査期間・面積・担当者は以下のとおりである。
調査期間：平成28年7月4日～10月1日
調査面積：4,400㎡
担当者：八木勝枝・村木 敬・森 裕樹・佐々木あゆみ・立花雄太郎・佐々木昭太
- 5 室内整理期間・担当者は以下のとおりである。
整理期間：平成28年11月1日～平成29年3月31日
担当者：八木勝枝・森 裕樹・佐々木あゆみ
- 6 本報告書の執筆は、第 I 章を国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、第 II・III 章を八木、第 IV 章を八木・森・佐々木あゆみ、第 V・VII 章を八木、第 VI 章を株式会社バリノ・サーヴェイが担当・執筆した。
- 7 出土遺物の分析・鑑定は次の機関に依頼した。
石材・石質鑑定：花崗岩研究会
火山灰分析：株式会社バリノ・サーヴェイ
- 8 発掘調査及び室内整理にあたり、以下の方々からご教示いただいた。(五十音順・敬称略)
石川日出志、熊谷常正、高橋 満、千田政博
- 9 基準点測量は株式会社ダイヤに、航空写真撮影は東邦航空株式会社に委託した。
- 10 今回の発掘調査で出土した遺物と諸記録は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 11 調査成果は、既に当埋蔵文化財センターのホームページ、調査概報等で公表しているが、記載が異なる場合は本報告書の報告が全てに優先する。

凡 例

- 1 遺構実測図の縮尺は以下のとおりである。
 - 竪穴住居跡：1/50
 - 竪穴住居跡の炉：1/25
 - 土坑：1/40
 - 焼土遺構：1/20
- 2 層位は基本層序にはローマ数字を、遺構の覆土にはアラビア数字を用いた。
- 3 各遺物の縮尺は原則以下のとおりである。なお、紙幅の制約上、これに依らないものについては個々にスケールを付した。
 - 土器・礫石器：1/3
 - 剥片石器・土製品・石製品：1/2
- 4 遺構図版及び遺物図版中に網掛けをしている場合は、個々に凡例を付している。
- 5 国土地理院発行の地形図を掲載したものには、図中に図幅名と縮尺を付した。
- 6 本書本文中では、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書を「岩埋文報」と省略する。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 立地と環境	
1 遺跡の位置と立地	1
2 周辺の地形	1
3 周辺の遺跡	4
III 調査・整理の方法	
1 野外調査	6
(1) 試掘・表土除去	6
(2) 遺構検出と精査	6
(3) 写真撮影	6
2 室内整理	6
(1) 遺構図面の整理	6
(2) 遺物の整理	6
(3) 写真撮影と整理	6
IV 検出された遺構	
1 調査の概要	7
(1) 調査経過	7
(2) 基本層序	7
2 検出遺構	10
(1) 竪穴住居跡	10
(2) 陥し穴状遺構	12
(3) 土坑	20
(4) 焼土遺構	22
V 出土遺物	
1 土器	46
2 石器	46
3 土製品	47
VI 自然科学分析	67
VII 総括	72
報告書抄録	110

図版目次

第1図	遺跡位置図	2	第25図	1～3号土坑	41
第2図	地形分類図	3	第26図	4～6号土坑	42
第3図	周辺の遺跡	5	第27図	7～9号土坑	43
第4図	基本土層	7	第28図	1～4号焼土	44
第5図	周辺地形図	8	第29図	5～7号焼土	45
第6図	遺構配置図	9	第30図	1号竪穴住居跡出土土器	48
第7図	1号竪穴住居跡	23	第31図	2・3号竪穴住居跡出土土器	49
第8図	2号竪穴住居跡	24	第32図	3号竪穴住居跡出土土器	50
第9図	3号竪穴住居跡	25	第33図	4号竪穴住居跡、10・19号陥し穴状遺構、 1・2・3・7号土坑出土土器	51
第10図	4号竪穴住居跡	26	第34図	8・9号土坑、1A・1Bグリッド出土土器	52
第11図	1・2号陥し穴状遺構	27	第35図	2A・2Bグリッド出土土器	53
第12図	3・4号陥し穴状遺構	28	第36図	2Bグリッド出土土器	54
第13図	5・6号陥し穴状遺構	29	第37図	2B・2Cグリッド出土土器	55
第14図	7・8号陥し穴状遺構	30	第38図	2C・3B・3Cグリッド出土土器	56
第15図	9・10号陥し穴状遺構	31	第39図	4B・4Cグリッド出土土器	57
第16図	11・12号陥し穴状遺構	32	第40図	1・2号竪穴住居跡出土土器	58
第17図	13・14号陥し穴状遺構	33	第41図	3号竪穴住居跡、15・19号陥し穴状遺構、 1号土坑出土土器	59
第18図	15・18号陥し穴状遺構	34	第42図	3号土坑、遺構外出土土器(1)	60
第19図	16・17号陥し穴状遺構	35	第43図	遺構外出土土器(2)	61
第20図	19・20号陥し穴状遺構	36	第44図	遺構外出土土器(3)	62
第21図	21・22号陥し穴状遺構	37	第45図	遺構外出土土器(4)、土製品	63
第22図	23・24号陥し穴状遺構	38			
第23図	25・26号陥し穴状遺構	39			
第24図	27号陥し穴状遺構	40			

表目次

第1表	周辺遺跡一覧	5	第3表	石器観察表	66
第2表	土器観察表	64	第4表	土製品観察表	66

写真図版目次

写真図版 1	空から見た遺跡	76	写真図版20	2号竪穴住居跡出土土器	95
写真図版 2	1号竪穴住居跡	77	写真図版21	3号竪穴住居跡出土土器	96
写真図版 3	1・2号竪穴住居跡	78	写真図版22	4号竪穴住居跡、10・19号陥し穴状遺構、 1・2・3・7号土坑出土土器	97
写真図版 4	2号竪穴住居跡	79	写真図版23	8・9号土坑、1A・1Bグリッド出土 土器	98
写真図版 5	3号竪穴住居跡(1)	80	写真図版24	2A・2Bグリッド出土土器	99
写真図版 6	3号竪穴住居跡(2)	81	写真図版25	2Bグリッド出土土器	100
写真図版 7	4号竪穴住居跡	82	写真図版26	2B・2Cグリッド出土土器	101
写真図版 8	1～4号陥し穴状遺構	83	写真図版27	2C・3B・3Cグリッド出土土器	102
写真図版 9	5～8号陥し穴状遺構	84	写真図版28	4B・4Cグリッド出土土器	103
写真図版10	9～12号陥し穴状遺構	85	写真図版29	1・2号竪穴住居跡出土土器	104
写真図版11	13～16号陥し穴状遺構	86	写真図版30	3号竪穴住居跡、15・19号陥し穴状遺構、 1号土坑出土土器	105
写真図版12	17～20号陥し穴状遺構	87	写真図版31	3号土坑、遺構外出土土器(1)	106
写真図版13	21～24号陥し穴状遺構	88	写真図版32	遺構外出土土器(2)	107
写真図版14	25～27号陥し穴状遺構	89	写真図版33	遺構外出土土器(3)	108
写真図版15	1～4号土坑	90	写真図版34	遺構外出土土器(4)、土製品	109
写真図版16	5～8号土坑	91			
写真図版17	9号土坑、1～3号焼土	92			
写真図版18	4～7号焼土	93			
写真図版19	1号竪穴住居跡出土土器	94			

I 調査に至る経過

サンニヤⅠ遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業(侍浜～階上)の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成28年5月13日付け国東整陸一調第7号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成28年5月17日～5月18日にわたり試掘調査を行い、平成28年5月27日付け教生第350号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成28年4月1日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)

II 立地と環境

1 遺跡の位置と立地

サンニヤⅠ遺跡に南接する地点は、平成27年度にサンニヤ遺跡として調査・報告されている(岩手埋文2016)。その後、平成26年度にサンニヤⅡ、平成28年度にサンニヤⅢ遺跡が新規遺跡登録されたため、本遺跡はサンニヤⅠ遺跡に名称変更した。

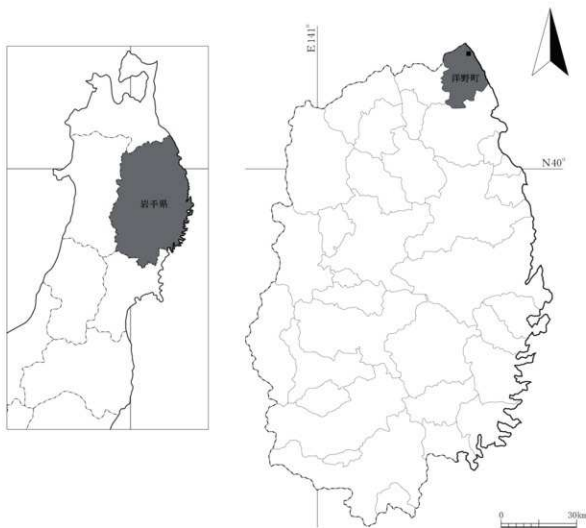
サンニヤⅠ遺跡が所在する洋野町は、平成18年1月1日に旧種市町と旧大野村が合併し、総面積は303.20km²、総人口は17,485人(平成29年1月31日時点)である。岩手県沿岸部最北端に位置し、南は久慈市、西は軽米町、北は青森県三戸郡階上町が隣接する。町域の現況は山林が210.70m²と町域の約7割を占め、標高約100mを境に西部高原地域と東部海岸地域に区分できる。夏季、東部海岸地域は春から夏に顕著なやませ(偏東風)の影響で濃霧が発生し、湿度が高く日照時間が短い特徴があり、一方、西部高原地域は東部海岸地域と比較して気温が4～5℃高い。

サンニヤⅠ遺跡は、洋野町役場から西方に約1.6km、川尻川右岸の標高約50m前後に立地する。北緯40°24'62"、東経141°42'1"付近に位置する。川尻川は直線距離約1.15kmで河口に至る。地図上では、国土地理院発行2万5千分の1地形図「種市」NK-54-18-6-2に含まれている。

2 周辺の地形

サンニヤⅠ遺跡周辺の旧種市町区は、軽米町・旧大野村との境をなす階上岳(種市岳740.1m)、久慈平岳(706.3m)及び海成段丘によって形成された南北に連なる地形配列・表層地質をなしている。三陸海岸は完新世後期5,000年前頃には少なくとも隆起量10mほどの地震隆起イベントがあったという研究があり(種市町教委1983・岩埋文2001)、現在の国道45号線は種市段丘上の白前段丘接点近くを中心に南北に作られている。三陸沿岸道路は、サンニヤⅠ遺跡付近では白前段丘上を中心に建設が進められている。

2 周辺の地形



第1図 遺跡位置図

サンニヤ I 遺跡は白前段丘上に立地する。白前段丘は標高60～100mで、約15～40万年前に形成されたと考えられている。西に連なる山地群は、階上岳山地・久慈平岳山地・黒間産地である。これら山地群は花崗閃緑岩等によって形成されており、それらの岩石は遺跡周辺の河川・海岸でも多く採集することができる。階上岳は、山頂部は緩傾斜を呈するが、高度が下がるにしたがって急傾斜となり、段丘面に接する地点から再び緩傾斜となる。白前段丘面は、やや傾斜のある丘陵地、種市段丘面は比較的平坦な地形で、種市火山灰・八戸火山灰を確認することができる。

参考文献

経済企画庁総合開発局国土調査課1974『縮尺20万分の1 土地分類図付属資料 岩手県』

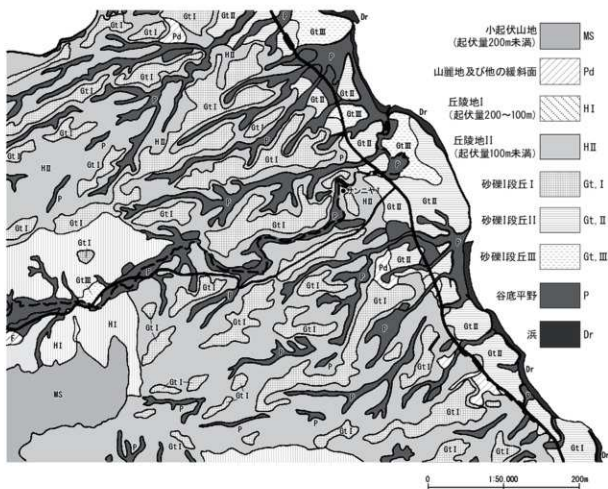
種市町教育委員会1983『ふるさと読本 地質編』

岩手県農政部北上山系開発室1979『北上山系開発地域土地分類基本調査 三戸、階上』

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2001『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩理文報第357集

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2016『平成27年度発掘調査報告書』岩理文報第661集

宮内崇祐ほか2005『三陸海岸の完新世後期上下変動と地震発生時期』『地震サイクリンポジウム』第2号



第2図 地形分類図

3 周辺の遺跡(第3図 第1表)

平成29年2月現在、岩手県遺跡情報検索システムに登録されている洋野町内の遺跡は203遺跡であり、平成28年度に新規発見・調査されたサンニヤⅢ遺跡を含めると204遺跡になる。そのうち、サンニヤⅠ遺跡近隣の遺跡を抽出したものが第3図、第1表である。(カッコ内数字は、第3図、第1表の遺跡番号)

洋野町(旧種市町・旧大野村)では、昭和59年の「岩手県中世城館調査事業」や、平成16年に旧種市町で行われた分布調査により、平成17年の時点で72遺跡が岩手県遺跡台帳に登録されていた。しかし、本格的な調査が行われた事例が極めて少なく、洋野町内の遺跡の様相については解明されていない部分が多かった。ところが、近年の三陸国道建設事業等に伴い、登録遺跡数は以前の約3倍に増加し、当センターをはじめとした本発掘調査件数も伸びつつある。

最近の調査事例はそのほとんどが縄文時代の遺跡であり、以下その詳細を概観していく。

まず縄文時代前期の遺跡と考えられるのは、平成27年に調査された上のマッカ遺跡、南鹿糠遺跡、平成28年に調査された小田ノ沢遺跡、北ノ沢Ⅰ遺跡(41)である。南鹿糠遺跡は堅穴住居2棟、陥し穴状遺構5基、土坑2基が検出されている。小田ノ沢遺跡は堅穴住居14棟、土坑60基を検出した集落跡であり、遺跡が形成される丘陵の頂部に堅穴住居、斜面地に土坑群が形成されている。

縄文時代中期の遺跡は、平成27年に調査された上のマッカ遺跡、平成27～28年にかけて調査された北鹿糠遺跡(6)が挙げられる。上のマッカ遺跡は縄文時代中期の堅穴住居が3棟、土坑25基が見つかり、琥珀片や古銭なども出土している。北鹿糠遺跡は南鹿糠遺跡と隣接し、同じように陥し穴状遺構が検出され、狩猟場としての性格を有する一方で、石斧が大量に出土し、その中には原石や未製品も含まれていることから、石斧製作を行う生産遺跡である可能性もある。

縄文時代後期の遺跡は平成26年に調査された下向遺跡、南川尻遺跡(15)、平成26年～27年にかけて調査された西平内Ⅰ遺跡(38)がある。下向遺跡は、陥し穴状遺構6基を検出した狩猟場であるが、遺構は発見されなかったものの、弥生時代中期～後期にかけての土器も出土している。南川尻遺跡は本遺跡と川尻川を挟んで対岸に位置しており、堅穴住居2棟、陥し穴状遺構11基、土坑5基が見つかり、西平内Ⅰ遺跡では後期初頭から前葉の配石遺構群とそれに囲まれたように存在する整地層が見つかった。配石遺構は2つの石列とその外側にある複数の配石墓群から構成されており、人骨等は発見されなかったものの祭祀に関わる土製品や石製品、土偶やヒスイ製垂飾品などが出土した。

以上のように、洋野町内では縄文時代の集落跡や狩猟場などの遺跡以外にも、生産遺跡や祭祀に関する遺跡が調査により発見され始めている。また縄文時代に限らず、古代の製塩土器片が見つかった二十一平遺跡(67)や板橋館跡(7)、小手野沢館跡(8)、土橋館跡(10)、荒屋敷館跡(11)、館野館跡(12)、南館跡(16)などの中世の城館跡が分布調査によりその存在を確認されており、洋野町内の調査がさらに進められ、地域の歴史が復元されていくものと考えられる。

参考文献

- 岩手県教育委員会1986『岩手県中世城館分布調査報告書』岩手県文化財報告書第82集
- 岩手県種市町教育委員会2005『種市町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』種市町埋蔵文化財調査報告書第2集
- 洋野町教育委員会2015『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集
- (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2015『平成26年度発掘調査報告書』岩埋文報第647集
- (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2016『平成27年度発掘調査報告書』岩埋文報第661集



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	埋没	時代	備考	No.	遺跡名	埋没	時代	備考
1	サンニヤⅡ	集落跡	古代	平成26年発見	35	東平内Ⅰ	散布地	縄文	平成23年発見
2	サンニヤⅢ	埴り遺跡	縄文	平成28年調査	36	東平内Ⅱ	散布地	縄文	平成23年発見
3	横手	散布地	縄文・古代		37	東平内Ⅲ	製鉄関連	不明	平成23年発見
4	トノ木の	散布地	縄文		38	西平内Ⅰ	散布地	縄文	平成26年調査
5	コソノ	集落跡	縄文	平成12年調査	39	西平内Ⅱ	散布地	縄文	平成23年発見
6	北倉跡	散布地	縄文	平成27年調査	40	西平内	散布地	縄文	平成23年発見
7	坂根館	城館跡	中世	昭和9年発見	41	北ノ沢Ⅰ	散布地	縄文	平成26年調査
8	小手野沢館	城館跡	中世	昭和9年発見	42	北ノ沢Ⅱ	散布地	縄文・古代	平成23年発見
9	小手野沢倉山	砂倉遺跡跡	近世		43	北ノ沢Ⅲ	散布地	縄文	平成23年発見
10	土城館	城館跡	中世	昭和9年発見	44	北ノ沢Ⅳ	散布地	縄文・古代	平成23年発見
11	常盤館跡	城館跡	中世	昭和9年発見	45	北ノ沢Ⅴ	製鉄関連	不明	平成23年発見
12	熊野館	城館跡	中世	昭和9年発見	46	北ノ沢Ⅵ	製鉄関連	不明	平成23年発見
13	牛草平	集落跡	縄文		47	北ノ沢Ⅶ	製鉄関連	不明	平成23年発見
14	横瀬	散布地	縄文		48	北ノ沢Ⅷ	製鉄関連	不明	平成23年発見
15	南川尻	散布地	縄文	平成26年調査	49	北ノ沢Ⅸ	製鉄関連	不明	平成23年発見
16	南瀬	城館跡	中世	昭和9年発見	50	北ノ沢Ⅹ	製鉄関連	不明	平成23年発見
17	津沢Ⅰ	散布地	縄文	平成23年発見	51	伝直Ⅰ	散布地	縄文・古代	平成23年発見
18	津沢Ⅱ	散布地	縄文	平成23年発見	52	伝直Ⅱ	散布地	縄文	平成23年発見
19	津沢Ⅲ	散布地	縄文	平成23年発見	53	伝直Ⅲ	散布地	縄文	平成23年発見
20	津沢Ⅳ	散布地	縄文	平成23年発見	54	伝直Ⅳ	製鉄関連	不明	平成23年発見
21	平内Ⅰ	散布地	縄文		55	伝直Ⅴ	製鉄関連	不明	平成23年発見
22	平内Ⅱ	散布地	縄文・近世		56	蓮花Ⅰ	散布地	縄文	平成23年発見
23	平内Ⅲ	散布地	縄文		57	蓮花Ⅱ	散布地	縄文	平成23年発見
24	平内Ⅳ	散布地	縄文・古代	平成23年発見	58	蓮花Ⅲ	散布地	縄文	平成23年発見
25	平内Ⅴ	散布地	縄文	平成23年発見	59	鹿屋Ⅰ	散布地	縄文	平成23年発見
26	北平内Ⅰ	散布地	縄文	平成23年発見	60	角川Ⅰ	散布地	縄文	平成23年発見
27	北平内Ⅱ	散布地	縄文・古代	平成23年発見	61	角川Ⅱ	散布地	縄文	平成23年発見
28	北平内Ⅲ	散布地	縄文	平成23年発見	62	境中山Ⅰ	散布地	縄文	平成23年発見
29	北平内Ⅳ	散布地	縄文	平成23年発見	63	境中山Ⅱ	散布地	縄文	平成23年発見
30	北平内Ⅴ	散布地	縄文・弥生	平成23年発見	64	アノ石Ⅰ	散布地	縄文・弥生・古代	
31	北平内Ⅵ	散布地	縄文	平成23年発見	65	角石	散布地	縄文	
32	南平内Ⅰ	散布地	縄文	平成23年発見	66	田ノ根Ⅰ	散布地	縄文	平成23年発見
33	南平内Ⅱ	散布地	縄文	平成23年発見	67	二十一平	製鉄遺跡	古代	平成15年発見
34	南平内Ⅲ	散布地	縄文	平成23年発見	68	石倉	集落跡	縄文・古代	

Ⅲ 調査・整理の方法

1 野 外 調 査

(1) 試掘・表土除去

岩手県教育委員会生涯学習文化課が実施した試掘結果に基づき、試掘掘削箇所に留意しながら調査開始7月4日から7月22日まで重機による表土除去を行った。

(2) 遺構検出と精査

遺構検出は試掘結果に基づき、重機による表土掘削後、地山面において行った。遺構精査は、竪穴住居跡は四分法(北向き時計回りで北東Q1・南東Q2・南西Q3・北西Q4と区分した)、その他遺構については二分法を原則とした。個々の遺構は覆土の堆積状況・遺物出土状況、遺構全景の撮影を行い、断面図は人手で、平面図は電子平板によって記録を行った。遺構内の遺物は、遺構名・出土層位・地点を記録して取り上げ、遺構外の遺物はグリッドと出土層位を記録して取り上げた。

(3) 写 真 撮 影

写真撮影は6×9判モノクロームフィルムカメラ1台とデジタル一眼レフカメラ1台で行った。撮影では、日付・遺構名などを記した撮影カードを写しこみ、室内整理作業に用いた。その他、調査終了時の10月1日、軽航空機による航空写真撮影を行った。

2 室 内 整 理

(1) 遺構図面の整理

野外調査時に計測した電子平板のデータを用いて作図した平面図と、野外作業員が作図した人手による断面図をデジタルデータ化して第二原図を作成した。

(2) 遺 物 の 整 理

出土遺物は洗浄を行い、種別毎に分類して袋に取め、袋毎に重量計測を行った。その後、遺物注記・接合作業を経て、本書掲載分と不掲載分に選別、掲載分は種別毎に仮番号を付けて登録作業を行った。この後、実測・拓本、点検・修正、トレース作業を行い、図版を作成した。仮番号は最終的に掲載番号に付け替えた。本書への掲載は、遺構内出土遺物を優先した。土器に関しては、遺構外の口縁部・底部は直径2cm以下のものを除き全点掲載した。

(3) 写真撮影と整理

野外調査時の記録写真等は、6×9判モノクローム写真はネガとともにアルバム貼付し、デジタルカメラデータは遺構毎に個別フォルダにまとめた。

遺物写真は、当里蔵文化財センター写真室にて撮影技師がデジタル一眼レフにて撮影した。

IV 検出された遺構

1 調査の概要

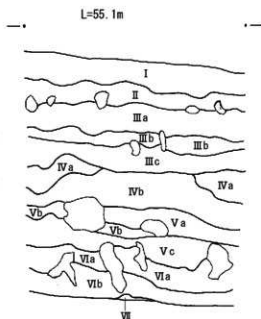
(1) 調査経過

7月4日から調査員立ち合いの下、重機による表土掘削を行い、7月25日から遺構検出作業を行った。排土置き場が調査区より高い地点にあること、また夏季における粗掘りは作業員を疲弊させることになったが、8月8日まで検出作業を行った。検出作業と並行して8月1日から遺構精査を開始した。精査は9月30日に完了し、10月1日に航空写真撮影を行った。

(2) 基本層序

調査区の中央西端において土層観察・記録を行った。

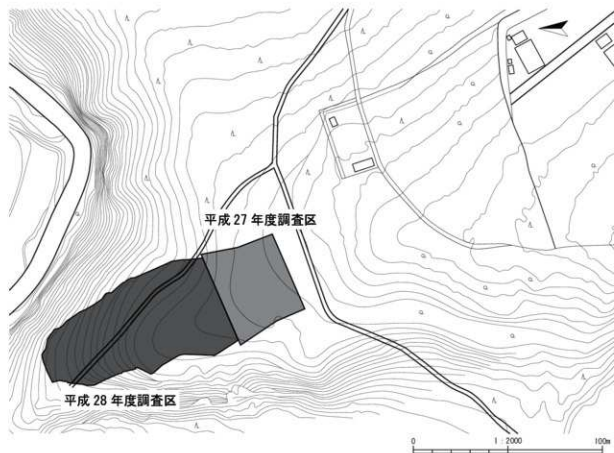
- | | | | | | | |
|---------|----------------|----|-----|---|-----|-------------------------|
| I 層 | 10YR4/4褐色シルト | 粘性 | 弱 | 締 | 疎 | |
| II 層 | 10YR5/6黄褐色シルト | 粘性 | 中 | 締 | 疎 | 灰白色火山性ガラスが混じる |
| III a 層 | 10YR3/4暗褐色シルト | 粘性 | 中 | 締 | やや疎 | 直径2～5mm炭粒5%含む |
| III b 層 | 10YR4/4褐色シルト | 粘性 | 中 | 締 | やや疎 | 直径3mm炭粒1%含む |
| III c 層 | 10YR4/4褐色シルト | 粘性 | やや弱 | 締 | やや疎 | 直径2mm炭粒1%、直径2mm褐色土粒1%含む |
| IV a 層 | 10YR4/6褐色シルト | 粘性 | やや強 | 締 | 密 | 南部浮石3%含む |
| IV b 層 | 10YR4/6褐色シルト | 粘性 | 中 | 締 | 疎 | 南部浮石3%含む |
| V a 層 | 10YR5/6黄褐色シルト | 粘性 | 中 | 締 | やや密 | 南部浮石5%含む |
| V b 層 | 10YR5/6黄褐色シルト | 粘性 | やや強 | 締 | 密 | 南部浮石15%含む |
| V c 層 | 10YR4/6褐色シルト | 粘性 | 強 | 締 | 密 | 南部浮石10%含む |
| VI a 層 | 10YR5/6黄褐色シルト | 粘性 | 強 | 締 | やや密 | 南部浮石50%含む |
| VI b 層 | 10YR5/6黄褐色シルト | 粘性 | 強 | 締 | 密 | 南部浮石5%含む |
| VII 層 | 10YR6/8明黄褐色シルト | 粘性 | 弱 | 締 | 密 | |



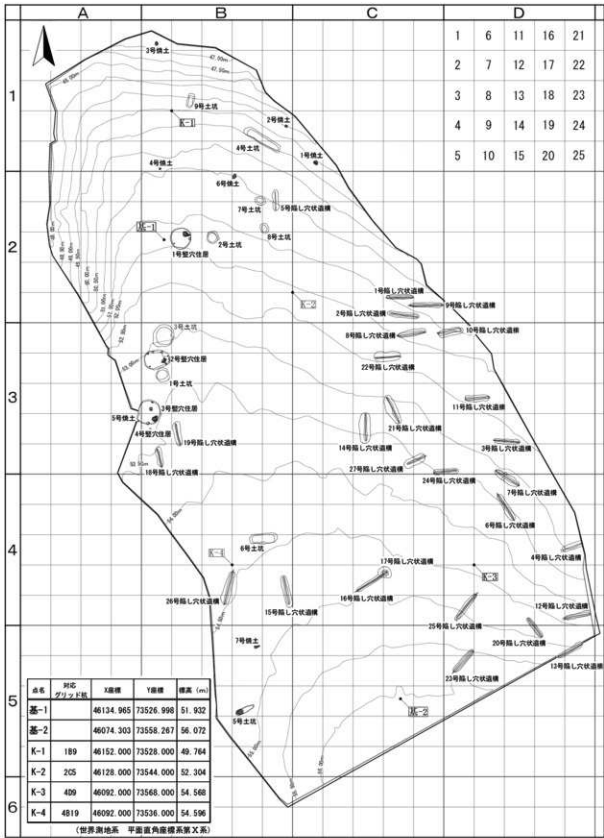
第4図 基本土層

本調査区の地形は、南から北に向けて緩やかに傾斜し、2B8グリッド付近から川尻川に向かって急傾斜となっている。竪穴住居跡・貯蔵穴は標高52m付近の段丘突端に配置され、陥し穴状遺構は調査区ほぼ全面に広がりが認められるものの、斜面地落ち際に近い地点ほど密集する傾向がある。竪穴住居跡・土坑・陥し穴状遺構はIII～IV層上面で検出、覆土は下位にIV層・上位にIII層起源と考えられる土が堆積していた。II層には灰白色火山灰質の堆積物が含まれ、サンプルを採取した。第V章で火山灰分析成果を掲載したが、予算の都合上遺構覆土火山灰を優先し、II層は分析を行っていない。ただし、II層火山灰質堆積層と遺構に伴う火山灰は肉眼では性質が近似する。

1 調査の概要



第5図 周辺地形図



第6図 遺構配置図

2 検出遺構

サンニヤ I 遺跡発掘調査で検出した遺構は、堅穴住居跡4棟、陥し穴状遺構27基、土坑9基、焼土7基である。

(1) 堅穴住居跡

1号堅穴住居跡(第7図、写真図版2・3)

[検出状況]2B8グリッドに位置する。基本層序IV層上面で検出した。他遺構との重複関係は認められないが、2号土坑が東2.2mに近接する。

[形状・規模・柱穴]平面形はほぼ円形で、規模は2.8×2.8m、深さは最深部で22～52cmである。調査区中央部のやや平坦な地点から北側緩斜面への傾斜変換地点に位置しているため、南側が深く北側ほど浅い。柱穴の可能性ある小ピットを2個検出した。ピット1は32×28cm・深さ15cm、炉の南東側壁際で確認した。ピット2は17×15cm・深さ10cmで、南西壁際で確認した。ただし、床面の精査を何度も繰り返した末に検出したため、構築当時の深さを示していない。堆積土はいずれも10YR4/4褐色シルト、粘性弱、締りやや疎で炭粒1%含む。柱痕は認められなかった。

[壁面・底面]IV～V層を壁とし、V層を底面とする。

[覆土]10層に細分した。覆土上位はIII層、中位以下はIV層起源の暗褐色土が多い。自然堆積と考えられる。

[炉]床面北東部で1基検出した。燃焼部被熱面長軸1m短軸65cm、床面を掘り窪めて長さ34～40cm幅23～33cmの扁平礫を据えた石囲炉である。北側の礫は1個(石No1花崗岩)、南側の礫は2個(東から石No3花崗閃緑岩・4花崗閃緑岩)連なり、いずれの礫も床面から出ている部分が平坦になるようにほぼ垂直に据えられていた。燃焼部は石No1・3・4に囲まれた範囲に65×90cmで検出した。

[出土遺物](第30・40図、写真図版19・29)土器2451.5g、石器(151・152)が出土している。遺物の取り上げは、住居を北向きに見た際、セクションポイントAA'・BB'で十字に区切って北東をQ1、南東をQ2、南西をQ3、北西をQ4として取り上げた。土器は(1～10)を掲載した。土器(1)はQ4の床面中央寄りから出土した。いずれも完形ではなく、破片が接合した状態である。

[年代]出土遺物から、縄文時代後期初頭の遺構と考えられる。

(八木)

2号堅穴住居跡(第8図、写真図版3・4)

[検出状況]3B2グリッドに位置する。基本層序II～III層上面で検出した。重機による表土掘削時、セクションAA'以東で灰白色火山灰が住居よりやや広めに確認された。AA'以西はIII層上面まで掘削した状態で検出した。他遺構との重複関係は認められないが、3号土坑が北0.4m、1号土坑が南に接する。

[形状・規模・柱穴]平面形はやや楕円形で、規模は3.4×2.5m、深さは28～45cmである。柱穴状小ピットは壁際で8個検出した。堆積土はいずれも10YR4/4褐色シルト、粘性強、締りやや密で直径2mmの炭粒1%・直径3mmの褐色土粒1%含む。平面規模長軸×短軸×深さは、ピット1:29×28×13、ピット2:24×22×10、ピット3:19×18×18、ピット4:17×16×17、ピット5:18×18×10、ピット6:8×8×7、ピット7:13×7×7、ピット8:15×14×10cmである。ただし、床面の精査を何度も繰り返した末に可能性がある8個を検出したため、深さは構築当時の値を示していない。

[壁面・底面]Ⅲ～Ⅳ層を壁とし、Ⅳ層を底面とする。

[覆土]1～6層に細分した。Ⅱ層火山灰を多く含む層が覆い、上位の黒～暗褐色土と、下位の褐色土が堆積している。自然堆積層と考えられる。

[炉]住居東壁近くで検出した。燃焼部被熱範囲は長軸56cm短軸35cm、床面を掘り窪めて角礫を「コ」の字状に据えた石囲炉である。石材は花崗閃緑岩を中心とするが、石No2は花崗岩である。

[出土遺物](第31・40・45図、写真図版20・29)土器2569.6g、石器(153～156)、土製品(187)1点が出土している。遺物の取り上げ方法は、住居を北向きに見た際、セクションポイントAA'・BB'で十字に区切って北東をQ1、南東をQ2、南西をQ3、北西をQ4とした。土器は(11～20)を掲載した。

[年代]出土遺物から、縄文時代後期初頭の遺構と考えられる。(八木)

3号竪穴住居跡(第9図、写真図版5・6)

[検出状況]岩手県教育委員会生涯学習文化課による事前試掘で土器(21・22)が検出されていたことから、遺構の可能性を考慮し慎重に遺構検出を行った。平面上は遺構の形状は確認できなかったため、調査区の形状及び切株の状況から広めに十字ベルトを設定し、サブレンチによる壁の立ち上がり確認作業を行った。覆土上面に4号竪穴住居跡炉を検出しており、断面観察により3号竪穴住居跡の方が古いと判断した。

[形状・規模]平面形はやや楕円形で、規模は2.98×3.3m、深さは30～48cmである。

[壁面・底面]Ⅲ～Ⅳ層を壁とし、Ⅴ層を底面とする。

[覆土]4～10層に細分した。下位に黄褐色～褐色土が多く、上位に暗褐色土が堆積していた。AA'断面図に示した11層は、炉石を覆っている。石No1・3と比較し、石No2は床面から突出する部分が長くやや不安定である。この状況を補強するための可能性は捨てきれない。

[炉]床面中央やや東寄りで見出した。燃焼部被熱範囲は長軸28短軸17cm、床面を掘り窪めて角礫を「コ」の字状に据えた石囲炉である。石材は全て花崗閃緑岩を用いている。

[出土遺物](第31・32・41図、写真図版21・30)土器破片821.3g、石器(157～159)が出土している。遺物の取り上げ方法は、住居を北向きに見た際、セクションポイントAA'・BB'で十字に区切って北東をQ1、南東をQ2、南西をQ3、北西をQ4とした。土器は(21～24)を掲載した。石器(157)は砂岩製の石皿状石器で、土器(23・24)の西側に並んで出土した。石器(157)が住居壁際に斜めに配置され、土器2個体が一列に並べられたものである。床面からは約5cm上位で、本住居利用時と断定できない。3号竪穴住居跡使用時に設置されたものか、4号竪穴住居跡に伴うものか、もしくはそれ以外の可能性がある。なお、土器(23・24)の中の土壌は水洗選別し、中に含まれていた炭化粒を抽出した。骨・種子等確認できなかったが、炭化粒の総重量は土器(23)が1.07g、土器(24)が1.95gである。

[年代]出土遺物から、縄文時代後期初頭の遺構と考えられる。(八木)

4号竪穴住居跡(第10図、写真図版7)

[検出状況]重機による表土除去後、人力による遺構検出で確認した。検出時、石囲炉だけを確認しており、1号炉として精査を開始した。3号竪穴住居跡精査の南北ベルトを記録する際、切り株脇に残された僅かな高まりに4号竪穴住居跡の壁の立ち上がりを一部確認することができたため、竪穴住居跡として報告する。なお、3号竪穴住居跡と重複関係が認められ、3号竪穴住居跡覆土上面に石囲炉が作られており、3号竪穴住居跡が古く4号竪穴住居跡が新しい。

[形状・規模]上述の状況から、形状は不明である。僅かな壁から石囲炉までの距離は1.8mあり、そ

れ以上の大きさが想定される。ベルトで観察した深さは34cmである。

[壁面・底面]Ⅲ層を壁とし、Ⅳ層及び3号竪穴住居跡覆土を底面とする。

[覆土]3層に細分した。暗褐色土と壁際の褐色土が堆積している。自然堆積の様相を呈する。

[炉]石Na.6砂岩、石Na.7花崗岩以外、全て花崗閃緑岩を用いている。

[出土遺物](第33図、写真図版22)土器91.8g出土し、(25~28)を掲載した。いずれも石囲炉検出時に出土したもので、明確に本遺構に伴うものと断言できない。

[年代]覆土出土遺物がなため時期不明だが、3号竪穴住居跡との重複関係から後期初頭の可能性がある。(八木)

(2) 陥し穴状遺構

1号陥し穴状遺構(第11図、写真図版8)

[検出状況]2C20グリッドのV層で検出した。

[形状・規模]N-90° -EWに長軸をとる溝状 上面規模:3.48×0.52m

短軸断面形:Y字形 層位:V~Ⅶ層下面付近 深さ(最深部):1.32m

[壁面・底面]本来(形成当時)の形状は、上部から下へ窄まり、Ⅶ層以下の両側面はより平行に近かったことが、層位と覆土の様相から推察される。底面は、東にやや傾く。

[覆土]Ⅲa層に相当する黒色土を主体とする。流入と崩落による自然堆積とみられる。

[出土遺物]なし

[年代]形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。

(佐々木)

2号陥し穴状遺構(第11図、写真図版8)

[検出状況]2C20・2C25グリッドのV層で検出した。

[形状・規模]N-83° -Wに長軸をとる溝状 上面規模:4.2×0.68m

短軸断面形:Y字形 層位:V~Ⅶ層下面付近 深さ(最深部):1.28m

[壁面・底面]本来の形状は、上部から下へ窄まり、Ⅶ層以下の両側面はより平行に近かったことが、層位と覆土の様相から推察される。底面はゆるやかな弓なりを呈し、東にやや傾く。

[覆土]Ⅲa層に相当する黒色土を主体とする。流入と崩落による自然堆積とみられる。

[出土遺物]なし

[年代]形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。

(佐々木)

3号陥し穴状遺構(第12図、写真図版8)

[検出状況]3D9・3D14グリッドに位置する。基本層序Ⅲ層上面において、暗褐色土の楕円形のプランとして検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模]平面形はN-87° -Wに長軸をとる溝形で、上面規模は3.47m×0.64mである。短軸断面形はY字形で、底面から50cmまではほぼ直立し、そこから開口部に向けて外傾しながら立ち上がる。長軸断面は両端ともに内傾しながら立ち上がるフラスコ状で、西端は顕著に張り出している。深さは最深部で1.38mである。

[壁面・底面]Ⅲ~V層を壁としており、V層を底面とする。底面は中央がやや盛り上がるが、その他は概ね平坦である。

[覆土]6層に細分した。褐色土が主体で、いずれの層もⅢ~Ⅳ層土を含んでおり、崩落または流入し

たものである。自然堆積と考えられる。

[出土遺物]なし

[年代]形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。

(森)

4号陥し穴状遺構(第12図、写真図版8)

[検出状況]4D23グリッドの調査区境に位置する。基本層序Ⅲ層の上面において、黒色土の半楕円形のプランとして検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模]調査区外工事中用地まで延びるため遺構の全体を調査することができなかった。そのため上面規模は残存範囲で計測して2.67m×0.81mで、平面形はN-70°-Eに長軸をとる溝形である。短軸断面形はU字形で、底面より90cmまで緩やかに、そこから開口部まで外傾しながら立ち上がる。長軸断面は西端だけを見ると、内傾しながら立ち上がる。深さは最深部で1.40mである。

[壁面・底面]Ⅲ～Ⅴ層を壁としており、Ⅴ層を底面とする。底面は自然地形に沿う形で西側がやや高くなる。

[覆土]6層に細分した。主体は黒～黒褐色土で、微傾斜地に立地するため上方からの流入土による自然堆積と考えられる。

[出土遺物]なし

[年代]形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。

(森)

5号陥し穴状遺構(第13図、写真図版9)

[検出状況]2B21・22グリッドに位置する。基本層序Ⅲ層上面で検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模]平面形はN-2°-Wに長軸をとる溝形で、上面規模は2.76×0.7mである。単軸断面形は緩やかなY字形だが、本来はV字形であったと考えられる。長軸断面形はほぼ直立する。深さは最深部で1.78mである。

[壁面・底面]Ⅲ～Ⅴ層以下を壁とする。底面はやや傾斜が認められる。

[覆土]6層に細分した。覆土中位以下は暗褐色土が多く、上位は壁面崩落土で構成される。自然堆積と考えられる。

[出土遺物]なし。

[年代]形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。

(八木)

6号陥し穴状遺構(第13図、写真図版9)

[検出状況]4D12グリッドに位置する。基本層序Ⅲ層上面において、黒褐色土の楕円形のプランとして検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模]平面形はN-33°-Eに長軸をとる溝形で、上面規模は4.00m×0.98mである。短軸断面形は逆台形で、底面より開口部に向けて緩やかに外傾しながら立ち上がる。長軸断面は両端ともに底面付近が張り出しながら立ち上がるフラスコ状である。深さは最深部で1.80mである。

[壁面・底面]Ⅲ～Ⅴ層を壁としており、Ⅴ層を底面とする。底面は概ね平坦である。

[覆土]6層に細分した。黄褐色土が主体で、いずれもⅢ～Ⅳ層土を含んでおり、崩落または流入したもので自然堆積と考えられる。

[出土遺物]なし

[年代]形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。(森)

7号陥し穴状遺構(第14図、写真図版9)

[検出状況]4D11グリッドに位置する。基本層序Ⅲ層上面において、黄褐色土と暗褐色土との楕円形のプランとして検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模]平面形はN-58°-Wに長軸をとる溝形で上面規模は3.69m×1.15mである。短軸断面形はY字形で、底面より1mまではほぼ直立し、そこから開口部に向けてやや外傾しながら立ち上がる。長軸断面は両端ともにやや内傾しながら立ち上がる。深さは最深部で1.43mである。

[壁面・底面]Ⅲ～V層を壁としており、V層を底面とする。底面は概ね平坦である。

[覆土]8層に細分したが、遺構覆土は5層までである。2・3層の暗褐色土が主体で、4・5層は壁崩落土である。全体にレンズ状の堆積をしており、自然堆積と考えられる。

[出土遺物]なし

[年代]形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。(森)

8号陥し穴状遺構(第14図、写真図版9)

[検出状況]3C16・3C21グリッドのV層で検出した。

[形状・規模]N-82°-Eに長軸をとる溝状 上面規模:3.72×0.84m

短軸断面形:Y字形 層位:V～Ⅶ層下位 深さ(最深部):1.44m

[壁面・底面]本来の形状は、上部から下へ窄まり、Ⅶ層以下の両側面はより平行に近かったことが、層位と覆土の様相から推察される。底面は、東にやや傾く。

[覆土]Ⅲa層に相当する黒色土を主体とする。流入と崩落による自然堆積とみられる。

[出土遺物]なし

[年代]形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。(佐々木)

9号陥し穴状遺構(第15図、写真図版10)

[検出状況]2C25グリッドのV層で検出した。

[形状・規模]N-89°-Eに長軸をとる溝状 上面規模:4.32×0.56m

短軸断面形:Y字形 層位:V～Ⅶ層下面付近 深さ(最深部):1.16m

[壁面・底面]本来の形状は、上部から下へ窄まり、Ⅶ層以下の両側面はより平行に近かったことが、層位と覆土の様相から推察される。底面は東にやや傾き、両端部はゆるやかに上がり内傾する。

[覆土]Ⅲa層に相当する黒色土を主体とする。流入と崩落による自然堆積とみられる。

[出土遺物]なし

[年代]形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。(佐々木)

10号陥し穴状遺構(第15図、写真図版10)

[検出状況]3C21・3D1グリッドのV～Ⅵ層上面で検出した。

[形状・規模]N-83°-Eに長軸をとる溝状 上面規模:3.32×0.96m

短軸断面形:Y字形 層位:V～Ⅶ層下位 深さ(最深部):1.52m

[壁面・底面]本来の形状は、上部から下へ窄まり、Ⅶ層以下の両側面はより平行に近かったことが、層位と覆土の様相から推察される。底面は水平であり、東側の端部は二股に分かれる。

[覆土] III a層に相当する黒色土を主体とする。流入と崩落による自然堆積とみられる。

[出土遺物] (第33図、写真図版22) 土器 (29~31) が出土している。29・30は木根際から出土した。

[年代] 形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。(佐々木)

11号陥し穴状遺構(第16図、写真図版10)

[検出状況] 3D3・3D8グリッドに位置する。基本層序III層上面において、暗褐色土の楕円形のプランとして検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模] 平面形はN-87°-Eに長軸をとる溝形で、上面規模は3.18m×0.88mである。短軸断面形はY字形だが、本来はV字形であったと考えられる。底面より60cmまでほぼ直立し、そこから開口部に向けて外傾しながら立ち上がる。長軸断面は底面から僅かに内傾しながら立ち上がる。

[壁面・底面] III~V層を壁としており、V層を底面とする。底面は概ね平坦である。

[覆土] 5層に細分したが、遺構覆土は4層までである。1層の暗褐色土が主体で、上方からの流入土による自然堆積と考えられる。

[出土遺物] なし

[年代] 形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。(森)

12号陥し穴状遺構(第16図、写真図版10)

[検出状況] 4D25グリッドに位置する。基本層序III層上面において、黒色土の楕円形のプランとして検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模] 調査区外工事中用地まで延びるため遺構の全体を調査することができなかった。そのため上面規模は残存範囲で計測して3.58m×0.69mで、平面形はN-76°-Eに長軸をとる溝形である。短軸断面形はV字形で、底面から開口部に向けてやや外傾しながら立ち上がる。長軸断面は西端だけを見るに、内傾しながら立ち上がる。深さは最深部で1.26mである。

[壁面・底面] III~V層を壁としており、V層を底面とする。底面は自然地形に沿う形で西側が僅かに高くなる。

[覆土] 4層に細分した。主体は黒色土で、微傾斜地に立地するため上方からの流入土による短期的な埋没であったと考えられる。

[出土遺物] なし

[年代] 形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。(森)

13号陥し穴状遺構(第17図、写真図版11)

[検出状況] 5D21グリッドに位置する。基本層序III層上面において、黒色土の楕円形のプランとして検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模] 平面形はN-59°-Eに長軸をとる溝形で、上面規模は3.75m×0.81mである。短軸断面形はV字形で、底面から開口部にむけてやや外傾しながら立ち上がる。長軸断面は両端ともに底面から開口部に向けてほぼ直立しながら立ち上がる。深さは最深部で1.21mである。

[壁面・底面] III~IV層を壁としており、IV層を底面とする。底面は概ね平坦である。

[覆土] 2層に細分した。主体は暗褐色土で、微傾斜地に立地するため上方からの流入土による短期的な埋没であったと考えられる。

[出土遺物] なし

〔年代〕形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。 (森)

14号陥し穴状遺構(第17図、写真図版11)

〔検出状況〕3C14グリッドのV層で検出した。

〔形状・規模〕N-1° - Wに長軸をとる楕円形 上面規模: 4.04×1.44m

短軸断面形: V字形 層位: V~VII層下位 深さ(最深部): 1.32m

〔壁面・底面〕VII層以下はV字形を呈し、底部は丸みを帯びる。開口部が大きく開くのは崩落によるとみられ、本来の形状は底部から上へなだらかに広がっていたと推察される。底面は北にやや傾き、両端部はゆるやかに上がり内傾する。

〔覆土〕III a層に相当する黒褐色土を主体とする。流入と崩落による自然堆積とみられる。

〔出土遺物〕なし

〔年代〕形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。 (佐々木)

15号陥し穴状遺構(第18図、写真図版11)

〔検出状況〕4B24・4B25グリッドのV層で検出した。

〔形状・規模〕N-12° - Wに長軸をとる溝状 上面規模: 4.32×0.88m

短軸断面形: Y字形 層位: V~VII層下位 深さ(最深部): 1.68m

〔壁面・底面〕本来の形状は、上部から下へ窄まり、VII層以下の両側面はより平行に近かったことが、層位と覆土の様相から推察される。底面は北にやや傾く。

〔覆土〕III a層に相当する黒色土を主体とする。流入と崩落による自然堆積とみられる。

〔出土遺物〕(第41図、写真図版30)石器(160)砥石が出土している。

〔年代〕形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。 (佐々木)

16号陥し穴状遺構(第19図、写真図版11)

〔検出状況〕4C14グリッドに位置する。基本層序III層上面において、黒褐色土の楕円形のプランとして検出した。17号陥し穴状遺構に切られている。

〔形状・規模〕重複しているため、上面規模は残存範囲で4.73m×0.60mで、平面形はN-58° - Eに長軸をとる溝形である。短軸断面形は逆台形で、底面から開口部にむけてやや外傾しながら立ち上がる。長軸断面は東端だけを見るに、内傾しながら立ち上がるフラスコ状である。深さは最深部で1.80mである。

〔壁面・底面〕III~V層を壁としており、V層を底面とする。底面は概ね平坦である。

〔覆土〕5層に細分した。主体は2層の暗褐色土で、5層の黒褐色土は上方からの流入土である。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕なし

〔年代〕形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。 (森)

17号陥し穴状遺構(第19図、写真図版12)

〔検出状況〕4C19グリッドに位置している。16号陥し穴状遺構の精査中に、暗褐色土の不明瞭な円形のプランとして検出した。16号陥し穴状遺構を切っている。

〔形状・規模〕平面形はN-66° - Wに長軸をとる不整形円で、上面規模は1.83m×1.48mである。断

面形は逆台形で、底面から開口部に向けて外傾しながら立ち上がる。深さは最深部で1.54mである。
 [壁面・底面]Ⅲ～Ⅴ層を壁としており、Ⅴ層を底面とする。底面は精査の先後により一部ののみ残存している状態であるが、概ね平坦であったと考えられる。

[覆土]7層に細分した。主体は2・3層の黒褐色土で、概ねレンズ状の堆積をしており自然堆積と考えられる。6層土は16号陥し穴状遺構の覆土と類似しており、本遺構が16号陥し穴状遺構の埋没後に掘削されたと想定される。

[出土遺物]なし

[年代]形状及び堆積土の様相から、縄文時代と考えられる。(森)

18号陥し穴状遺構(第18図、写真図版12)

[検出状況]3B5グリッドに位置する。基本層序Ⅴ層上面で検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模]平面形は $N-15^{\circ}-W$ に長軸をとる溝形で、上面規模は $2.66 \times 0.7m$ である。単軸断面形は緩やかなY字形だが、本来はV字形であったと考えられる。長軸断面形は南側がフラスコ状を呈する。深さは最深部で1.48mである。

[壁面・底面]Ⅴ～Ⅶ層以下を壁とする。底面はやや傾斜が認められる。

[覆土]9層に細分した。覆土中位以下は暗褐色土が多く、上位壁際は壁面崩落土、中央は暗褐色土で構成される。自然堆積と考えられる。

[出土遺物]なし。

[年代]規模・形状から、縄文時代の遺構と考えられる。(八木)

19号陥し穴状遺構(第20図、写真図版12)

[検出状況]3B9グリッドに位置する。基本層序Ⅴ層上面で検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模]平面形は $N-13^{\circ}-W$ に長軸をとる溝形で、上面規模は $3.24 \times 0.9m$ である。単軸断面形は緩やかなY字形だが、本来はV字形であったと考えられる。長軸断面形は底面から開口部に向けて緩やかに広がる。深さは最深部で1.54mである。

[壁面・底面]Ⅴ～Ⅶ層以下を壁とする。底面はほぼ平らである。

[覆土]5層に細分した。覆土中位以下は暗褐色土が多く、上位壁際は壁面崩落土、中央は暗褐色土で構成される。自然堆積と考えられる。

[出土遺物](第33・41図、写真図版22・30)土器破片140gが出土している。いずれも検出面から出土した。土器(32～36)を掲載した。石器は剥片(161)が出土している。

[年代]規模・形状から、縄文時代の遺構と考えられる。(八木)

20号陥し穴状遺構(第20図、写真図版12)

[検出状況]5D16グリッドに位置している。基本層序Ⅲ層上面において、黒色土の楕円形のプランとして検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模]平面形は $N-37^{\circ}-W$ に長軸をとる溝形で、上面規模は $3.22m \times 0.66m$ である。短軸断面形はV字形で、底面から開口部に向けて外傾しながら立ち上がる。長軸断面は両端ともに、底面から開口部に向けてやや外傾しながら緩やかに立ち上がる。深さは最深部で1.22mである。

[壁面・底面]Ⅲ～Ⅴ層を壁としており、Ⅴ層を底面とする。底面は概ね平坦である。

[覆土] 2層に細分した。主体は黒褐色土で、微傾斜地に立地するため上方からの流入土による短期的な埋没であったと考えられる。

[出土遺物]なし

[年代]規模・形状から、縄文時代の遺構と考えられる。

(森)

21号陥し穴状遺構(第21図、写真図版13)

[検出状況]3C18・3C19グリッドのⅤ層で検出した。

[形状・規模]N-26° -Wに長軸をとる楕円形 上面規模:4.08×1.2m

短軸断面形:Y字形 層位:Ⅴ～Ⅶ層下位 深さ(最深部)1.12m

[壁面・底面]Ⅶ層以下は鋭いY字形を呈し、底部は丸みを帯びる。開口部が大きく開くのは崩落によるとみられるが、西側は根攪乱により詳細は不明である。底面は左右へ歪み、北西にやや傾く。

[覆土]Ⅲa層に相当する黒褐色土を主体とする。流入と崩落による自然堆積とみられる。

[出土遺物]なし

[年代]規模・形状から、縄文時代の遺構と考えられる。

(佐々木)

22号陥し穴状遺構(第21図、写真図版13)

[検出状況]3C12・3C17グリッドのⅤ層で検出した。

[形状・規模]N-85° -Eに長軸をとる溝状 上面規模:3.52×1.24m

短軸断面形:Y字形 層位:Ⅴ～Ⅶ層下位 深さ(最深部):1.6m

[壁面・底面]本来の形状は、上部から下へ傘まり、Ⅶ層以下の両側面はより平行に近かったことが、層位と覆土の様相から推察される。底面はほぼ水平であり、両端部は奥へ入りこむ。

[覆土]Ⅲa層に相当する黒色～黒褐色土を主体とする。流入と崩落による自然堆積とみられる。

[出土遺物]なし

[年代]規模・形状から、縄文時代の遺構と考えられる。

(佐々木)

23号陥し穴状遺構(第22図、写真図版13)

[検出状況]5D2グリッドに位置している。基本層序Ⅲ層上面において黒褐色土の楕円形のプランとして検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模]平面形はN-42° -Eに長軸をとる溝形で、上面規模は3.85m×0.80mである。短軸断面形は逆台形で、底面から開口部に向けてやや外傾しながら立ち上がる。長軸断面は両端ともに、内傾しながら立ち上がる。深さは最深部で2.06mである。

[壁面・底面]Ⅲ～Ⅴ層を壁としており、Ⅴ層を底面とする。底面は自然地形に沿う形で西側が僅かに高くなる。

[覆土] 5層に細分した。1層の黒褐色土が主体で、2～4層は地山層土がブロック状に入っていることから壁崩落土、5層は上方からの流入土である。自然堆積と考えられる。

[出土遺物]なし

[年代]規模・形状から、縄文時代の遺構と考えられる。

(森)

24号陥し穴状遺構(第22図、写真図版13)

[検出状況]3D5グリッドに位置している。基本層序Ⅲ層上面において、黒褐色土の楕円形のプランとして検出した。他遺構との重複は認められない。

[形状・規模]平面形はN-85° - Eに長軸をとる溝形で、上面規模は3.35m×0.75mである。短軸断面形はY字形であるが、もとはV字であったと考えられる。長軸断面は東壁が内傾して立ち上がるのに対し、西壁は底面より開口部に向けて僅かに外傾しながら立ち上がる。深さは最深部で1.64mである。

[壁面・底面]Ⅲ～V層を壁としており、V層を底面とする。底面は概ね平坦である。

[覆土]6層に細分した。主体は2・3層の暗褐色土で、覆土中位以下は地山層土を含んだ褐色土が多い。自然堆積と考えられる。

[出土遺物]なし

[年代]規模・形状から、縄文時代の遺構と考えられる。

(森)

25号陥し穴状遺構(第23図、写真図版14)

[検出状況]4D5グリッドに位置している。基本層序Ⅲ層上面において暗褐色土の楕円形のプランとして検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模]平面形はN-39° - Eに長軸をとる溝形で、上面規模は4.43m×0.76mである。短軸断面形はY字形で、底面から60cmまでほぼ直立し、そこから開口部に向けて外傾しながら立ち上がる。長軸断面は本来両端とも大きく内湾しながら立ち上がる形状であったと考えられるが、内傾しているのは東端のみである。西端は底面から30cmほどの高さまで内湾している形状が確認できたが、そこからは崩落しており確認できなかった。深さは最深部で1.55mである。

[壁面・底面]Ⅲ～V層を壁としており、V層を底面とする。底面は自然地形に沿う形で西側が僅かに高くなる。

[覆土]5層に細分した。主体は3・5層の黒褐色土で、覆土上位は壁崩落土で構成されている。自然堆積と考えられる。

[出土遺物]なし

[年代]規模・形状から、縄文時代の遺構と考えられる。

(森)

26号陥し穴状遺構(第23図、写真図版14)

[検出状況]4B14グリッド付近に位置する。基本層序Ⅲ層上面で検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模]平面形はN-14° - Eに長軸をとる溝形で、上面規模は4.5×0.96mである。単軸断面形は緩やかなY字形だが、本来はV字形であったと考えられる。長軸断面形は開口部から底面に向けて緩やかに広がる。深さは最深部で1.54mである。

[壁面・底面]Ⅳ～Ⅶ層以下を壁とする。底面はほぼ平らである。

[覆土]9層に細分した。覆土中位以下は暗褐色土が多く、上位壁際は壁面崩落土、中央は暗褐色土で構成される。自然堆積と考えられる。

[出土遺物]なし

[年代]規模・形状から、縄文時代の遺構と考えられる。

(八木)

27号陥し穴状遺構(第24図、写真図版14)

[検出状況]3C25グリッドに位置している。基本層序Ⅲ層上面において暗褐色土の楕円形のプランとし

て検出した。他遺構との重複関係は認められない。

〔形状・規模〕平面形はN-63°-Eに長軸をとる溝形で、上面規模は3.03m×1.13mである。短軸断面形はY字形で、底面から50cmまでほぼ直立し、そこから開口部にむけて外傾しながら立ち上がる。長軸断面は両端異なり、東端は内傾しながら立ち上がる。西端は底面から50cmまで直立し、そこから開口部にむけて外傾しながら立ち上がる。深さは最深部で1.57mである。

〔壁面・底面〕Ⅲ～V層を壁としており、V層を底面とする。底面は概ね平坦である。

〔覆土〕5層に細分した。主体は1・3層の暗褐色土で、覆土下位は地山層土を含んだ壁崩落土で構成されている。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕なし

〔年代〕規模・形状から、縄文時代の遺構と考えられる。 (森)

(3) 土 坑

1号土坑(第25図、写真図版15)

〔検出状況〕3B2グリッドに位置する。基本層序Ⅲ層上面で検出した。他遺構との重複関係は認められないものの、2号竪穴住居跡の南に接する地点に位置する。

〔形状・規模〕平面形は円形で、上面規模は1.7×1.86mである。断面形はフラスコ状を呈する。深さは最深部で0.68mである。

〔壁面・底面〕Ⅲ～Ⅳ層を壁とする。底面は凹凸が顕著で、攪乱によるものの可能性がある。

〔覆土〕4層に細分した。暗褐色土が多い。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕(第33・41図、写真図版22・30)土器破片82.1gが出土している。土器底部(37)を掲載した。石器は礫器(162)が出土している。

〔年代〕規模・形状、堆積状況及び出土遺物から、縄文時代後期初頭の遺構と考えられる。 (八木)

2号土坑(第25図、写真図版15)

〔検出状況〕2B13グリッド付近に位置する。基本層序Ⅱ層上面で検出した。他遺構との重複関係は認められないものの、1号竪穴住居跡の東に隣接する。

〔形状・規模〕平面形は円形で、上面規模は1.42×1.5mである。深さは最深部で1.2mである。

〔壁面・底面〕Ⅱ～Ⅵ層を壁面とする。底面は平滑に整えられている。

〔覆土〕12層に分層した。

〔出土遺物〕(第33図、写真図版22)土器破片1137.4gが出土している。土器(38～40)を掲載した。この他、底面近くから花崗閃緑岩の自然礫が1点出土している。

〔年代〕規模・形状、堆積状況及び出土遺物から、縄文時代後期初頭の遺構と考えられる。 (八木)

3号土坑(第25図、写真図版15)

〔検出状況〕3B1グリッド付近に位置する。基本層序Ⅱ層上面で検出した。

〔形状・規模〕平面形は円形で、上面規模は2.9×2.74mである。最深部で0.9mである。

〔壁面・底面〕Ⅲ～Ⅳ層を壁面とし、Ⅶ層を底面とする。

〔覆土〕上位Ⅱ層由来層、中位Ⅲ層由来、下位Ⅳ層由来の土が堆積している。

〔出土遺物〕(第33・42図、写真図版22・31)土器破片53.1gが出土している。土器(41～43)を掲載した。覆土中位から土器(43)が出土している。坏もしくは鉢の可能性が考えられる。石器は不掲載

のチャート剥片1点9.6g以外全点掲載した(163~165)。

[年代]規模・形状、堆積状況及び出土遺物から、古代の可能性が考えられる。(八木)

4号土坑(第26図、写真図版15)

[検出状況]1B25グリッド付近に位置する。表土除去後、基本層序V層上面で検出した。

[形状・規模]平面形は円形で、上面規模は1.18×5.44mである。

[壁面・底面]壁面は四方直立する。壁面・底面とも、平滑に整えられていない。V層を壁面・底面とする。

[覆土]3層に分層した。炭化材片が多く出土した。

[出土遺物]なし

[年代]規模・形状、堆積状況及び出土遺物から、近代の可能性が考えられる。(八木)

5号土坑(第26図、写真図版16)

[検出状況]5B18グリッドに位置している。基本層序III層において炭化物混じりで黒色土の不明瞭な楕円形のプランとして検出した。他遺構との重複関係は認められない。

[形状・規模]平面形はN-63°-Eに長軸をとる楕円形で、上面規模は2.62m×0.71mである。断面形は皿形で、深さの最深部は0.21mである。

[壁面・底面]III層を壁としており、III層を底面とする。底面は根掘乱により凹凸があるが、概ね平坦であったと考えられる。

[覆土]2層に細分した。検出段階でみられた黒色土が主体で、炭化材や焼土粒を多量に含んでいる。底面には炭化物粒を含む褐色土が堆積していた。

[出土遺物]なし

[年代]規模・形状・堆積土の様相から、近代の可能性が考えられる。(森)

6号土坑(第26図、写真図版16)

[検出状況]4B18・4B23グリッドのVI層上面で検出した。

[形状・規模]N-84°-Eに長軸をとる楕円形 上面規模:3.76×1.32m 深さ(最深部):0.24m

[壁面・底面]VI~VII層上面を底面とする。底面は水平である。被熱の痕跡は認められない。壁面はゆるやかに立ち上がり、断面形は浅い皿形を呈する。

[覆土]炭を含む黒色土を主体とする。炭が多く、一部炭ブロックが葉理状に堆積する。

[出土遺物]縄文土器破片が1点(4.8g)出土した。非常に小さく文様も判然としない小破片だったため不掲載としたが、縄文時代の土器破片と判断した。

[時期]覆土上位に堆積する火山灰質土の分析結果によるが、形状からは古代の炭窯と推測される。

(佐々木)

7号土坑(第27図、写真図版16)

[検出状況]2B21グリッド付近に位置する。基本層序IV層上面で検出した。

[形状・規模]平面形は円形で、上面規模は1.45×1.1mである。最深部で0.4mである。

[壁面・底面]IV層を壁面・底面とする。

[覆土]6層に分層した。上位は炭を多く含む黒褐色土で構成され、中位に崩落土の可能性のある褐色

土が堆積している。

[出土遺物](第33図、写真図版22)土器破片33.1gが出土している。土器底部(44)が底面付近から出土している。

[年代]規模・形状、堆積状況及び出土遺物から、縄文時代後期の可能性が考えられる。(八木)

8号土坑(第27図、写真図版16)

[検出状況]2B22グリッド付近に位置する。基本層序IV層上面で検出した。

[形状・規模]平面形は円形で、上面規模は1.1×1.35mである。

[壁面・底面]IV～VI層を壁面とする。底面はほぼ平滑である。

[覆土]6層に分層した。全体的に炭粒の混入が多い。

[出土遺物](第34図、写真図版23)土器破片23.3gが出土している。土器(45)を掲載した。

[年代]規模・形状、堆積状況及び出土遺物から、縄文時代後期の可能性が考えられる。(八木)

9号土坑(第27図、写真図版17)

[検出状況]1B8グリッドに位置する。基本層序V層上面で検出した。

[形状・規模]平面形は円形で、上面規模は0.9×1.86mである。

[壁面・底面]壁面・底面とも平滑であり、周辺で検出した焼土・炭窯と同時期の近代以降のものである可能性が高い。

[覆土]褐色土と黒褐色土が互層をなし、自然堆積の様相をなす。

[出土遺物](第34図、写真図版23)土器破片49.2gが出土している。土器(46・47)を掲載した。

[年代]規模・形状、堆積状況から近代以降の可能性が考えられる。(八木)

(4) 焼土遺構

(第28・29図、写真図版17・18)

7基確認した。1～4・6号焼土は1Bグリッド付近の北斜面地に位置する。いずれも表土直下で検出した。共伴遺物が明確でなく、時期が判然としない。焼成は著しくない。5号焼土は3号竪穴住居跡の南に接する地点3A24グリッドで検出した。検出面は4号竪穴住居跡床面とほぼ同じ面である。検出位置から3号竪穴住居跡もしくは4号竪穴住居跡に関わるものの可能性もあるが、重機による表土掘削後に検出したものであり時期は判然としない。(八木)

7号焼土(第29図、写真図版18)

[検出状況]5B16グリッドのIII b層で検出した。

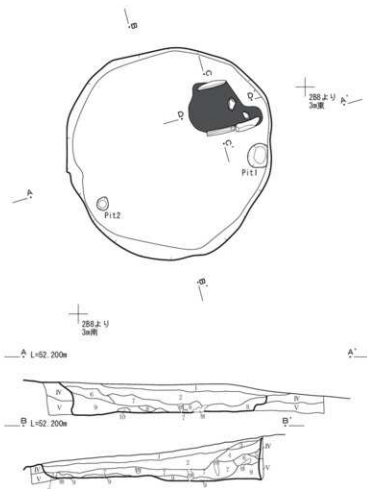
[形状・規模]不整形(斑状に散在) 上面規模(最大): 0.74×0.36m

[覆土]木根により攪乱され、本来の様相を留めていないとみられる。性格は不明である。

[出土遺物]なし

(佐々木)

1号竪穴住居跡

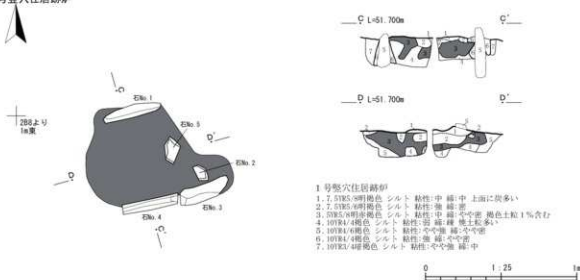


1号竪穴住居跡

1. 10TK3/6暗褐色 シルト 粘性:弱 締:やや密
2. 10TK2/3暗褐色 シルト 粘性:やや密 締:やや密 直径2mm炭粒1%・八戸火山灰ブロック2%含む
3. 10TK3/3暗褐色 シルト 粘性:やや密 締:やや密
4. 10TK2/3暗褐色 シルト 粘性:やや密 締:やや密 直径1mm炭粒1%含む
5. 10TK3/4暗褐色 シルト 粘性:弱 締:密
6. 10TK4/6褐色 シルト 粘性:やや密 締:中 10TK3/4暗褐色シルトブロック状に入り混状なす
7. 10TK3/6暗褐色 シルト 粘性:やや密 締:密 直径2~5mm炭粒2%含む
8. 10TK4/6褐色 シルト 粘性:やや密 締:密 八戸火山灰ブロック5%含む
9. 10TK3/6暗褐色 シルト 粘性:中 締:中
10. 10TK4/6褐色 シルト 粘性:中 締:密
- IV. 10TK3/4暗褐色 シルト 粘性:中 締:やや密
- V. 10TK3/4暗褐色 シルト 粘性:中 締:中

0 1:50 2m

1号竪穴住居跡炉



1号竪穴住居跡炉

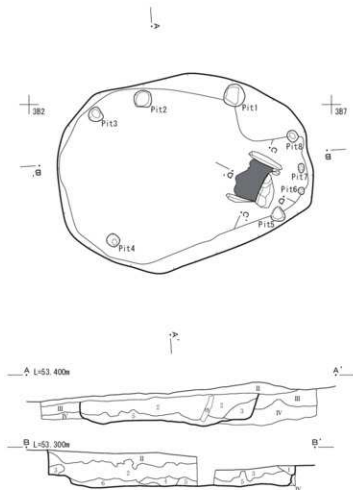
1. 2. 5TK5/6明褐色 シルト 粘性:中 締:中 上面に炭多い
2. 7. 5TK5/6明褐色 シルト 粘性:強 締:密
3. 5TK5/6明褐色 シルト 粘性:中 締:やや密 褐色土粒1%含む
4. 10TK4/4褐色 シルト 粘性:弱 締:密 焼土粒5%含む
5. 10TK4/6褐色 シルト 粘性:やや密 締:やや密
6. 10TK4/4褐色 シルト 粘性:強 締:やや密
7. 10TK3/4暗褐色 シルト 粘性:やや密 締:中

0 1:25 1m

第7図 1号竪穴住居跡

2 検出遺構

2号竪穴住居跡

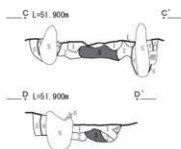


2号竪穴住居跡

1. 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性:中 締:中 灰・褐色土和20%含む
 2. 10YR2/2赤褐色 シルト 粘性:強 締:密 灰多く含む
 3. 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性:弱 締:やや密 灰・褐色土和3%含む
 4. 10YR2/3赤褐色 シルト 粘性:中 締:中 灰和1%含む
 5. 10YR4/4褐色 シルト 粘性:やや弱 締:中
 6. 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性:強 締:中 10YR4/4褐色シルト含み斑状をなす
 7. 10YR2/3赤褐色 シルト 粘性:中 締:中
 8. 10YR2/3赤褐色 シルト 粘性:中 締:中 10YR4/4褐色シルトブロック状に含み斑状をなす 褐色土層下部に火山灰が認められる
 9. 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性:中 締:中
 IV. 10YR4/4褐色 シルト 粘性:強 締:密

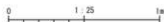


2号竪穴住居跡炉

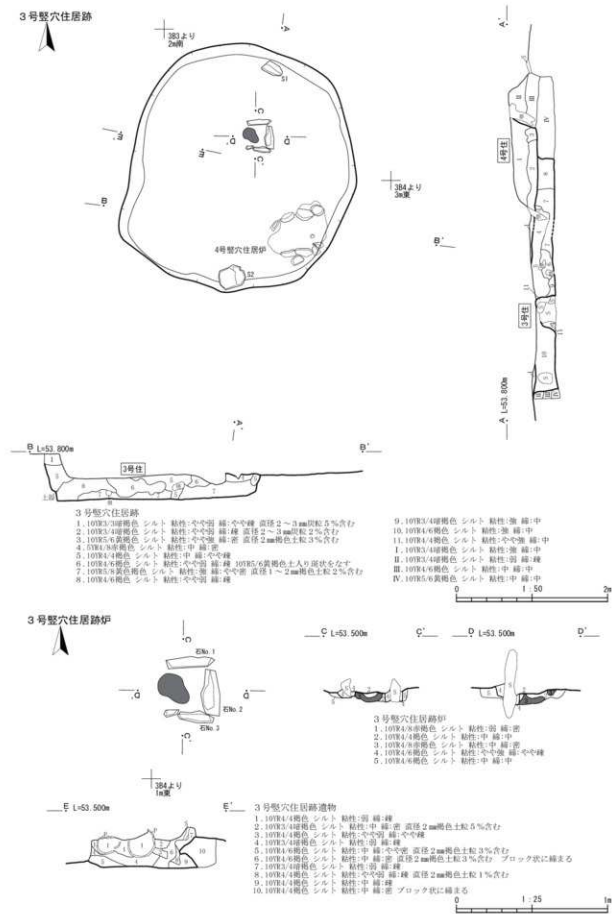


2号竪穴住居跡炉

1. 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性:強 締:やや密
 2. 10YR4/4褐色 シルト 粘性:やや強 締:密
 3. 10YR4/3赤褐色 シルト 粘性:中 締:密
 4. 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性:強 締:密
 5. 10YR4/4褐色 シルト 粘性:強 締:密



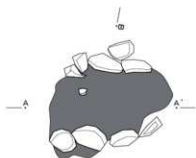
第8図 2号竪穴住居跡



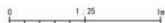
第9図 3号竪穴住居跡

2. 検出遺構

4号竪穴住居跡

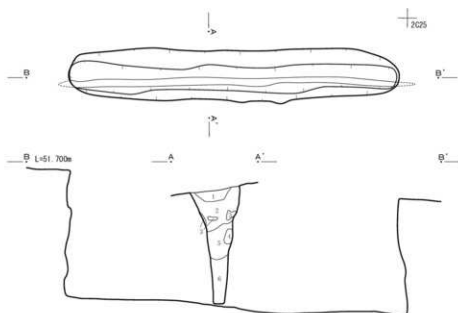


- 4号竪穴住居跡切
- | | | | | | | | |
|------|-----|-----|----|---|---|---|------------|
| 1. 土 | 褐色 | シルト | 粘質 | 中 | 細 | 粒 | 炭灰10%・焼土含む |
| 2. 土 | 褐色 | シルト | 粘質 | 中 | 細 | 粒 | |
| 3. 土 | 赤褐色 | シルト | 粘質 | 中 | 細 | 粒 | |
| 4. 土 | 褐色 | シルト | 粘質 | 中 | 細 | 粒 | |
| 5. 土 | 褐色 | シルト | 粘質 | 中 | 細 | 粒 | |



第10図 4号竪穴住居跡

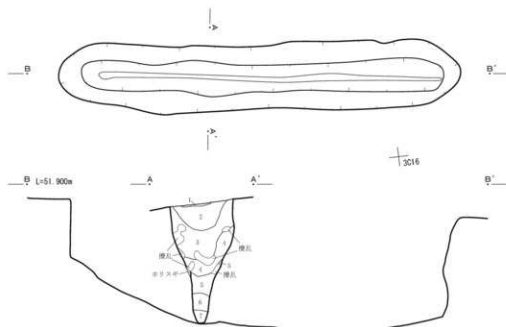
1号陥し穴状遺構



1号陥し穴状遺構

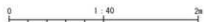
1. 10YR2/1黒色 シルト 粘性:中 締:やや硬 黒褐色土40%含み炭状をなす 褐色土粒1%含む
2. 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性:中 締:中 暗褐色土40%含み炭状をなす 褐色土粒1%含む
3. 10YR6/6黄褐色 シルト 粘性:やや硬 締:中 硬質粘土
4. 10YR6/6明黄褐色 砂質シルト 粘性:中 締:中 硬質粘土
5. 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性:やや硬 締:やや硬 VI層崩落ブロック20%、褐色土粒3%含む
6. 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性:やや硬 締:やや硬 主に崩落灰土、VI層崩落ブロック5%、褐色土粒3%含む

2号陥し穴状遺構



2号陥し穴状遺構

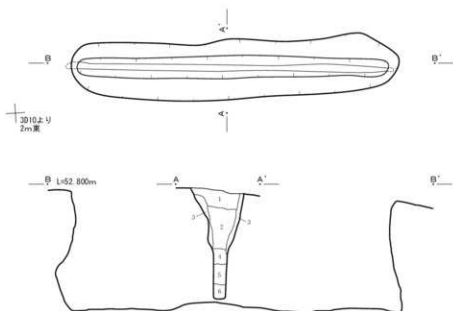
1. 10YR6/9明黄褐色 砂質シルト 粘性:中 締:やや硬 硬質二次堆積土 黒色土10%含む
2. 10YR2/1黒色 シルト 粘性:中 締:り:やや硬 褐色土粒2%含む (1層から産入)
3. 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性:中 締:中 褐色土20%、暗褐色土20%含み炭状をなす 褐色土粒1%含む
4. 10YR4/4褐色 シルト 粘性:やや硬 締:やや硬 VI層崩落土20%、黒褐色土30%含み炭状をなす 褐色土粒3%含む
5. 10YR6/9明黄褐色 砂質シルト 粘性:やや硬 締:やや硬 硬質粘土
6. 10YR4/4褐色 シルト 粘性:やや硬 締:やや硬 VI層崩落ブロック10%含む
7. 10YR2/1黒色 シルト 粘性:中 締:やや硬 主に崩落灰土、褐色土粒(主に硬質の崩落土粒)30%含む



第11図 1・2号陥し穴状遺構

2 検出遺構

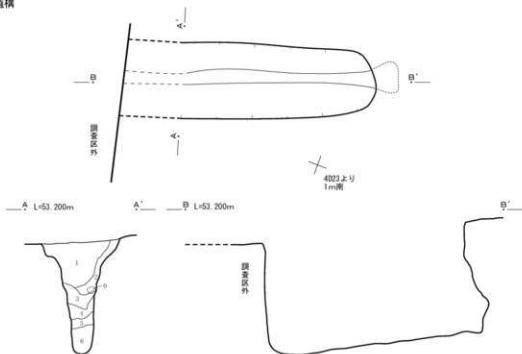
3号陥し穴状遺構



3号陥し穴状遺構

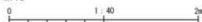
1. 10TR3/2黄褐色 シルト 粘性:弱 締:稀 炭化物粒少量入る
2. 10TR4/4褐色 シルト 粘性:弱 締:中々稀 黄褐色土粒 (地山層) が少量入る
3. 10TR5/6黄褐色 シルト 粘性:弱 締:稀 黄褐色土ブロック (地山層) が少量入る 礫崩落土
4. 10TR1/4褐色 シルト 粘性:中々強 締:中々密 土中石 (地山層) が少量入る
5. 10TR3/3黄褐色 シルト 粘性:中々弱 締:稀 黄褐色土ブロック (地山層) が少量入る
6. 10TR1/6褐色 シルト 粘性:強 締:中々稀 粘性が非常に強い 黄褐色土 (地山層) が少量入る

4号陥し穴状遺構



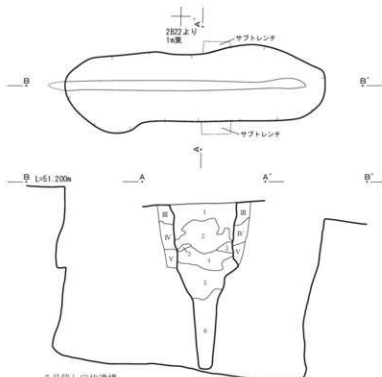
4号陥し穴状遺構

0. 腐土
1. 10TR2/1灰色 シルト 粘性:弱 締:稀 黄褐色土粒中量入る
2. 10TR3/1黒褐色 シルト 粘性:強 締:中々密 1層と同様に黄褐色土粒が少量入る 礫崩落土又は泥入土
3. 10TR3/2黒褐色 シルト 粘性:強 締:密 ブロック状の礫が一部入る
4. 10TR1/6褐色 シルト 粘性:強 締:中々密 黄褐色土粒 (地山層) が少量入る 礫崩落土
5. 10TR2/2黒褐色 シルト 粘性:中々強 締:稀 炭化物粒少量入る
6. 10TR4/2黄褐色 シルト 粘性:中々強 締:中々稀 黄褐色土粒 (地山層) が少量入る



第12図 3・4号陥し穴状遺構

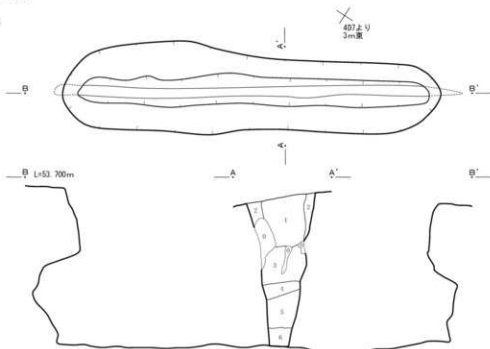
5号陥し穴状遺構



5号陥し穴状遺構

1. 10YR4/3に多い黄褐色 シルト 粘性:弱 綿:稀 直径3mm褐色土和30%含む
2. 10YR5/8黄褐色 シルト 粘性:弱 綿:密 直径3mm~1cm褐色土和90%含む
3. 10YR4/6褐色 シルト 粘性:中 綿:中 直径5mmの褐色土和10%含む
4. 10YR4/6褐色 シルト 粘性:弱 綿:やや密 直径3mm~1cm褐色土和60%含む
5. 10YR4/4褐色 シルト 粘性:弱 綿:稀 直径3mm褐色土和10%含む
6. 10YR4/3に多い黄褐色 シルト 粘性:弱 綿:稀 直径3mm褐色土和20%含む
- III. 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性:弱 綿:疎 直径5mm褐色土ブロック5%含む
- IV. 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性:中 綿:やや密 直径3mm褐色土ブロック10%含む
- V. 10YR4/6褐色 シルト 粘性:強 綿:密 直径3mm褐色土和30%含む

6号陥し穴状遺構



6号陥し穴状遺構

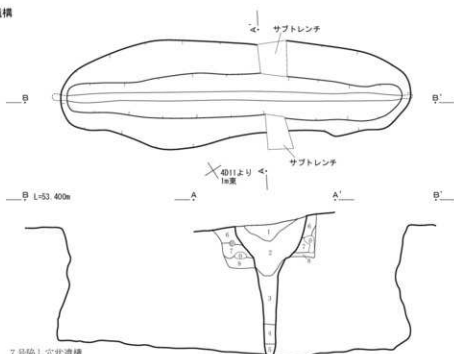
0. 埋土
1. 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性:やや強 綿:やや密 黄褐色土和少量入る
2. 10YR4/6褐色 シルト 粘性:弱 綿:稀 低層は多量・壺形落土
3. 10YR5/8黄褐色 砂質シルト 粘性:弱 綿:稀 砂質の混入物入る 壺形落土
4. 10YR5/6黄褐色 砂質シルト 粘性:弱 綿:稀 2層と同様に砂質の混入物入る 壺形落土
5. 10YR6/8明黄褐色 砂質シルト 粘性:弱 綿:稀 全体的に砂質で、3・4層と同様に混入物入る 壺形落土
6. 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性:弱 綿:稀 層山の黄褐色土ブロックが混入する 壺形落土

0 1:40 2m

第13図 5・6号陥し穴状遺構

2 検出遺構

7号陥し穴状遺構

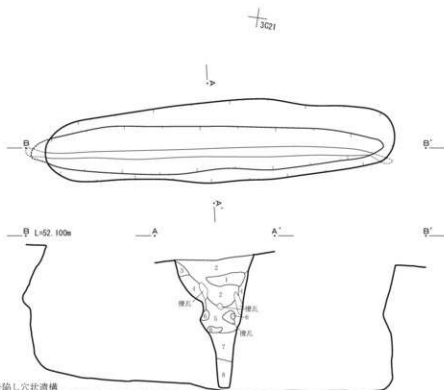


7号陥し穴状遺構

0. 層別

1. 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性:弱 締:緩 根層長による暗褐色土が一部入る
2. 10YR3/2黄褐色 シルト 粘性:弱 締:緩 黄褐色土粒が少量入る
3. 10YR3/4黄褐色 シルト 粘性:強 締:やや硬 2層と同様に黄褐色土粒が少量入る 根層長による黄褐色土も一部入る
4. 10YR6/4明黄褐色 シルト 粘性:やや強 締:やや硬 8層に似る 暗褐色土が
5. 10YR6/8明黄褐色 砂質シルト 粘性:強 締:硬 8層に似る 小礫混入も
6. 10YR4/4褐色 シルト 粘性:弱 締:緩 根層長による暗褐色土が一部入る 層別
7. 10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性:やや強 締:やや硬 砂質の混入物少量入る 4層
8. 10YR6/4明黄褐色 砂質シルト 粘性:弱 締:緩 7層と同様に砂質の混入物少量入る V層

8号陥し穴状遺構



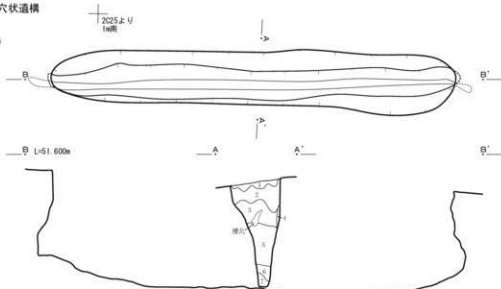
8号陥し穴状遺構

1. 10YR2/1黒色 シルト 粘性:中 締:やや硬 褐色土粒1%含む
2. 10YR3/2黄褐色 シルト 粘性:中 締:やや硬 主に黄褐色土 (V層以下二次堆積土) 30%、褐色土粒2%含む
3. 10YR3/2黄褐色 シルト 粘性:中 締:やや硬 褐色土粒2%含む
4. 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性:中 締:中 V層崩落土
5. 10YR3/2黄褐色 シルト 粘性:やや強 締:やや硬 V層崩落ブロック20%、褐色土粒3%含む
6. 10YR7/6明黄褐色 砂質シルト 粘性:やや強 締:やや硬 V層崩落土
7. 10YR6/4明黄褐色 砂質シルト 粘性:やや強 締:やや硬 V層崩落土 暗褐色土30%含む底砂もなす
8. 10YR3/2黄褐色 シルト 粘性:中 締:やや硬 主に黄褐色土 V層崩落ブロック20%、褐色土粒(主にV層の崩落土粒) 30%含む

0 1:40 2m

第14図 7・8号陥し穴状遺構

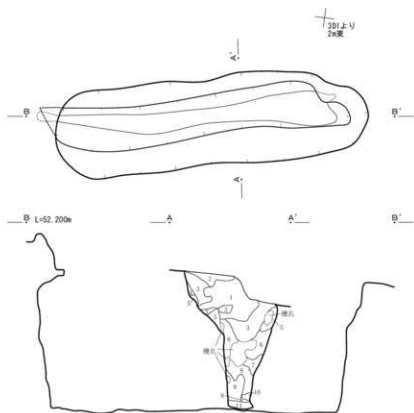
9号陥し穴状遺構



9号陥し穴状遺構

1. 10136/8明黄褐色 砂質シルト 粘性:中 締:やや密 Ⅴ層二次堆積土、黒色土30%含む現状をなす
2. 10134/3にぶい黄褐色 シルト 粘性:中 締り:やや密 褐色土和2%含む(1層から直入)
3. 10132/2黒褐色 シルト 粘性:中 締:やや密 褐色土10%含む現状をなす 褐色土和1%含む
4. 10135/6黄褐色 シルト 粘性:中 締:中 Ⅴ層崩落土
5. 10132/3暗褐色 シルト 粘性:やや密 締:やや硬 Ⅴ・Ⅵ層崩落ブロック10%含む
6. 10136/6明黄褐色 砂質シルト 粘性:やや密 締:やや硬 Ⅴ層崩落土
7. 10132/2黒褐色 シルト 粘性:中 締:やや硬 主にⅤ層の崩落土和) 30%含む

10号陥し穴状遺構



10号陥し穴状遺構

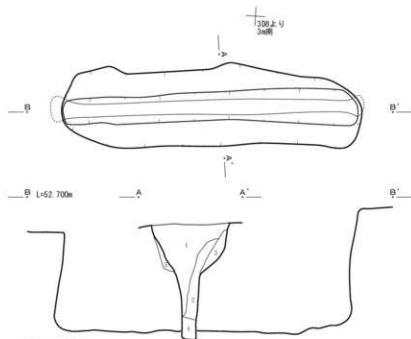
1. 10131/7/1黒色 シルト 粘性:やや密 締:やや密 3層と積みあう
2. 10132/2黒褐色 シルト 粘性:中 締:やや密
3. 10132/2黒褐色 シルト 粘性:中 締:中 黒色土20%、埋褐色土20%含む現状をなす 褐色土和2%含む
4. 10132/2黒褐色 シルト 粘性:中 締:中
5. 10135/5黄褐色 シルト 粘性:中 締:中 Ⅴ層崩落土
6. 10132/3暗褐色 シルト 粘性:やや密 締:やや硬 Ⅴ層崩落ブロック30%含む
7. 10136/6明黄褐色 砂質シルト 粘性:やや密 締:やや硬 Ⅴ層崩落土
8. 10134/4褐色 シルト 粘性:やや密 締:やや硬 Ⅴ層崩落ブロック30%、褐色土和(主にⅤ層の崩落土和) 30%含む
9. 10132/2黒褐色 シルト 粘性:中 締:やや硬 褐色土和5%含む
10. 10132/2黒褐色 シルト 粘性:中 締:やや硬 褐色土和5%含む
11. 10136/6明黄褐色 粘土質シルト 粘性:強 締:中 Ⅴ層下位崩落土
12. 10132/1黒色 シルト 粘性:やや密 締:やや硬 崩落流入土

0 1:40 2m

第15図 9・10号陥し穴状遺構

2. 検出遺構

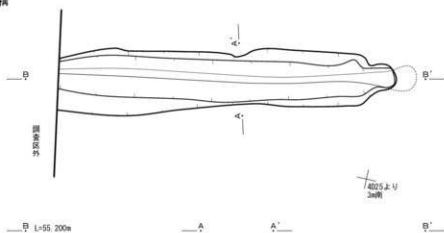
11号陥し穴状遺構



11号陥し穴状遺構

1. 10YK3/3黄褐色 シルト 粘性:弱 締:稀 形模乱による黒褐色土が一部入る 黄褐色土粒が少量入る
2. 10YR4/4褐色 シルト 粘性:中~やや強 締:中~密 黄褐色土粒(地山層)少量入る
3. 10YR5/4に3~5黄褐色 シルト 粘性:強 締:密 5層土(V層)がブロック状に少量入る 礫崩落土
4. 10YK3/1黒褐色 シルト 粘性:強 締:密 堆山の砂層が少量混じる 礫崩落土
5. 10YR5/4黄褐色 砂質シルト 粘性:弱 締:稀 砂層直じりの層 V層

12号陥し穴状遺構

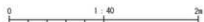


調査区外

調査区外

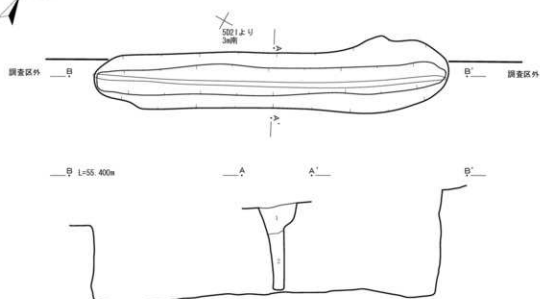
12号陥し穴状遺構

1. 10YK2/1黒色 シルト 粘性:弱 締:稀 黄褐色土粒が少量入る
2. 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性:弱 締:密 黄褐色土粒が少量入る
3. 10YR4/4褐色 シルト 粘性:弱 締:稀 形模乱による黒土ブロック一部あり、堆山の黄褐色土ブロック少量入る 礫崩落土
4. 10YK2/1黒色 シルト 粘性:強 締:密 粘性非常に強い 炭化物粒微量入る



第16図 11・12号陥し穴状遺構

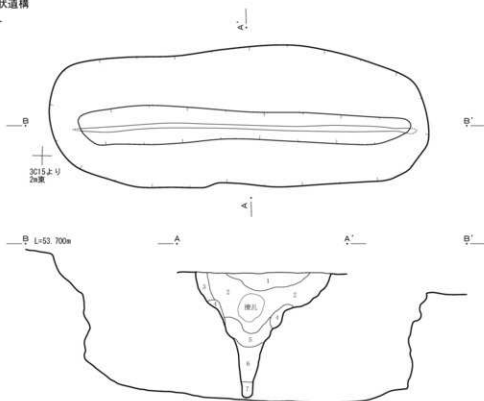
13号陥し穴状遺構



13号陥し穴状遺構

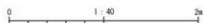
1. 10YR2/2黒色 シルト 粘性: 弱 締: 硬 黄褐色土粒 (地山層) 微量入る
 2. 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性: 中~強 締: 中~硬 黄褐色土ブロック (地山層) 少量入る

14号陥し穴状遺構



14号陥し穴状遺構

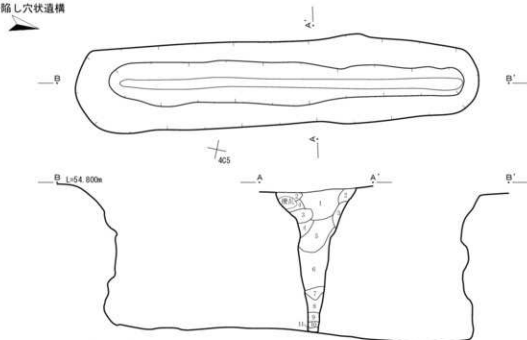
1. 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性: 中 締: 中~硬部
 2. 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性: 中 締: 中 黄褐色土40%含み面状をなす 褐色土粒2%含む
 3. 10YR4/4褐色 シルト 粘性: 中 締: 中~硬 褐色土粒5%含む
 4. 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性: 中 締: 中 V層崩落土
 5. 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性: 中~強 締: 中~硬 V層崩落ブロック20%、褐色土粒2%含む
 6. 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性: 中~強 締: 中~硬 V層崩落ブロック10%、褐色土粒 (主にV層の崩落土粒) 20%含む
 7. 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性: 強 締: 中~硬 主に崩落灰土 褐色土粒 (主にV層の崩落土粒) 20%含む



第17図 13・14号陥し穴状遺構

2. 検出遺構

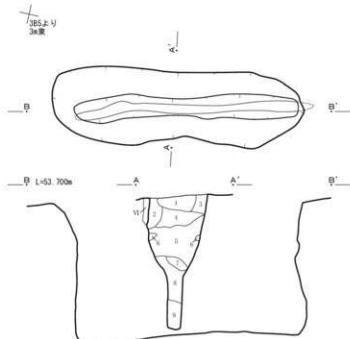
15号陥し穴状遺構



15号陥し穴状遺構

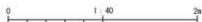
1. 10YR2/1黒色 シルト 粘性:中 締:やや密 黒褐色土40%含む底状をなす 褐色土粒1%含む
2. 10YR5/4に濃い黄褐色 シルト 粘性:やや強 締:やや密 日曜の出入3ヶ、或いはV層下位の二次堆積
3. 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性:中 締:中 V層部遺土
4. 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性:中 締:中 褐色土粒3%含む
5. 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性:中 締:中 暗褐色土40%含む底状をなす 褐色土粒3%含む
6. 10YR4/4褐色 シルト 粘性:やや強 締:やや硬 V層部底層2mm3%含む 褐色土粒 (主にV層部の崩落土粒) 30%含む
7. 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性:中 締:中 暗褐色 褐色土粒 (主にV層部の崩落土粒) 10%含む
8. 10YR5/4に濃い褐色 粘土質シルト 粘性:やや強 締:やや硬 V層下部崩落土
9. 10YR7/6明黄褐色 砂質シルト 粘性:弱 締:やや硬 V層部崩落土
10. 10YR5/4に濃い褐色 粘土質シルト 粘性:強 締:やや硬 V層下部崩落土
11. 10YR2/1黒色 シルト 粘性:強 締:やや硬 崩壊硬土

18号陥し穴状遺構



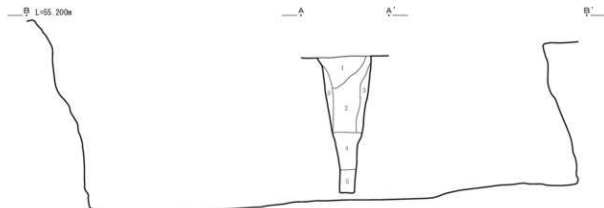
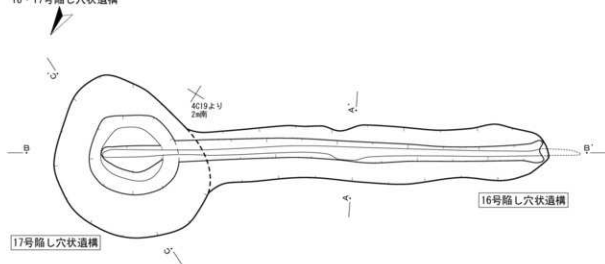
18号陥し穴状遺構

1. 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性:中 締:やや密 10YR4/4褐色シルト含む底状をなす 褐色土粒直径2mm3%含む
2. 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性:弱 締:中 10YR4/4褐色シルト含む底状をなす 褐色土粒直径2mm3%含む
3. 10YR4/4褐色 シルト 粘性:弱 締:弱
4. 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性:中 締:中 褐色土粒直径2mm3%含む
5. 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性:やや強 締:やや密 褐色土粒直径2mm3%含む
6. 10YR5/6黄褐色 シルト 粘性:中 締:中
7. 10YR4/4褐色 シルト 粘性:強 締:やや密
8. 10YR4/4褐色 シルト 粘性:中 締:中
9. 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性:中 締:中
- IV. 10YR4/6褐色 シルト 粘性:やや強 締:密 南部浮石3%含む



第18図 15・18号陥し穴状遺構

16・17号陥し穴状遺構



16号陥し穴状遺構

1. 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性:弱 締:疎 堆積乱多し、炭化物粒微量入る
2. 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性:弱 締:中~やや弱 相違乱多し、地山の黄褐色土ブロック微量入る
3. 10YR4/6褐色 シルト 粘性:中~やや弱 締:疎 堆積乱による2層土ブロック少量入る 埋積層土
4. 10YR5/6褐色 砂質シルト 粘性:弱 締:疎 地山層 (V層) が崩落したもののか
5. 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性:弱 締:疎 4層土少量含む

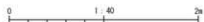
0 L=55. 200m



17号陥し穴状遺構

0. 覆瓦

1. 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性:弱 締:疎 堆積乱多し、炭化物粒微量入る
2. 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性:中~やや弱 締:疎 堆積乱多し、炭化物粒微量入る
3. 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性:中~やや強 締:密 堆積乱多し、炭化物粒・黄褐色土粒少量入る
4. 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性:中~やや強 締:中~やや密 3層の暗褐色土ブロック少量入る
5. 10YR4/6褐色 シルト 粘性:弱 締:中~やや密 相違乱多し、炭化物粒微量入る
6. 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性:強 締:密 16号陥し穴状遺構の5層土に似る 埋積層土
7. 10YR6/8明褐色 砂質シルト 粘性:弱 締:疎 埋積層土上



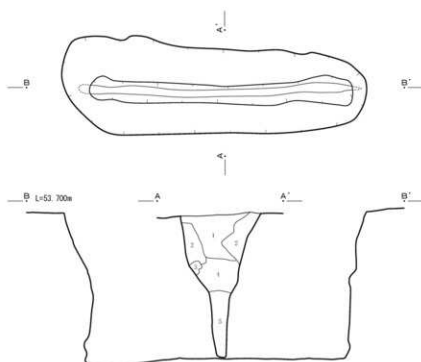
第19図 16・17号陥し穴状遺構

2 検出遺構

19号陥し穴状遺構



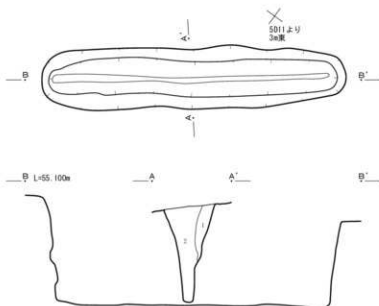
389



19号陥し穴状遺構

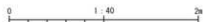
1. 10TR3/4層褐色シルト 粘性:やや強 締:中 炭粒直径5mm3%・褐色土粒直径2mm3%含む
2. 10TR4/3に多い黄褐色シルト 粘性:弱 締:中 褐色土粒直径2mm3%含む
3. 10TR5/6層褐色シルト 粘性:強 締:強
4. 10TR3/4層褐色シルト 粘性:やや弱 締:やや強 褐色土ブロック直径2mm2%含む
5. 10TR4/3に多い黄褐色シルト 粘性:弱 締:強 褐色土ブロック直径2mm1%含む

20号陥し穴状遺構



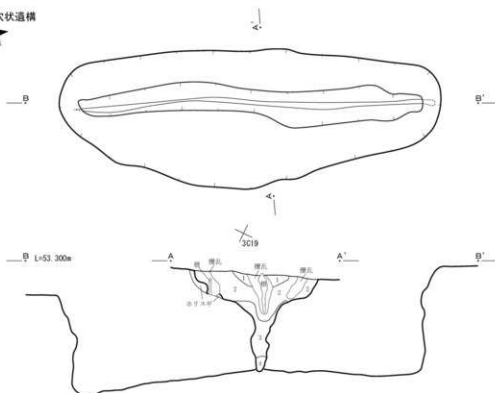
20号陥し穴状遺構

1. 10TR2/1黒色シルト 粘性:弱 締:強 黄褐色土ブロック(地山層)少量入る 礫質赤土
2. 10TR2/2黒褐色シルト 粘性:強 締:強 礫層と多い 黄褐色土粒(地山層) 礫質入る



第20図 19・20号陥し穴状遺構

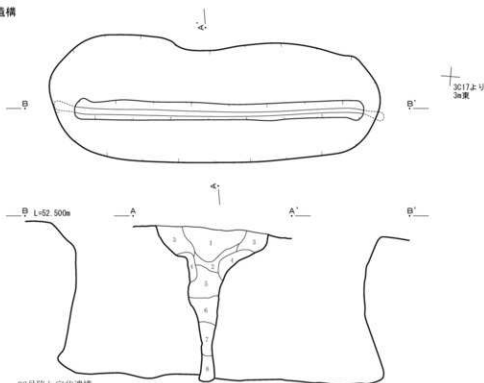
21号陥し穴状遺構



21号陥し穴状遺構

1. 10TR2/2階褐色 シルト 粘性:中 締:中 赤色土10%、にぶい黄褐色土(19号2層と類似)10%含む泥状をなす
 2. 10TR3/2階褐色 シルト 粘性:中 締:中 黄褐色土40%、にぶい黄褐色土5%含む泥状をなす 褐色土和5%含む
 3. 10TR3/3階褐色 シルト 粘性:中 締:中 赤褐色 V層崩落ブロック90%、褐色土和5%含む
 4. 10TR3/2階褐色 シルト 粘性:中 締:中 赤褐色 主に崩壊流入土 褐色土和3%含む

22号陥し穴状遺構



22号陥し穴状遺構

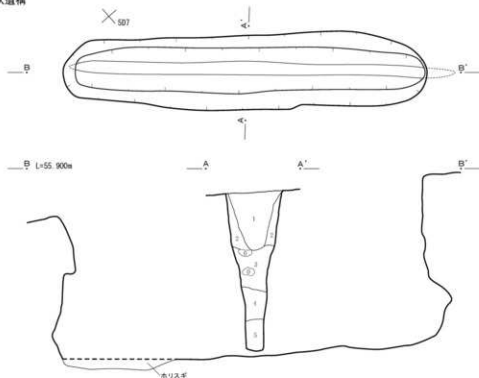
1. 10TR2/2階褐色 シルト 粘性:中 締:中 にぶい黄褐色土(19号2層と類似)10%含む泥状をなす 褐色土和2%含む
 2. 10TR3/3階褐色 シルト 粘性:中 締:中 赤褐色 にぶい黄褐色土20%含む泥状をなす 褐色土和5%含む
 3. 10TR3/2階褐色 シルト 粘性:中 締:中 赤褐色 赤褐色土40%含む泥状をなす 褐色土和2%含む
 4. 10TR5/6階褐色 シルト 粘性:中 締:中 赤褐色 V層崩落土
 5. 10TR3/3階褐色 シルト 粘性:中 締:中 赤褐色 V層崩落ブロック90%、褐色土和(主にV層の崩落土和)10%含む
 6. 10TR3/2階褐色 シルト 粘性:中 締:中 赤褐色 褐色土和(主にV層の崩落土和)40%含む
 7. 10TR3/2階褐色 シルト 粘性:中 締:中 赤褐色 褐色土和(主にV層の崩落土和)20%含む
 8. 10TR2/1階色 シルト 粘性:強 締:中 赤褐色 主に崩壊流入土 V層下位崩落土5%、褐色土和(主にV層の崩落土和)50%含む

0 1:40 2m

第21図 21・22号陥し穴状遺構

2. 検出遺構

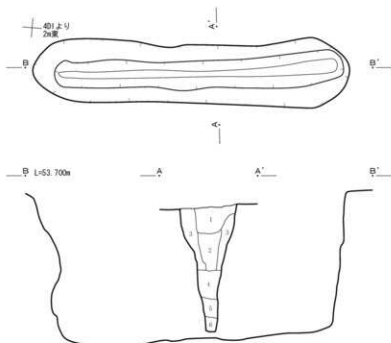
23号陥し穴状遺構



23号陥し穴状遺構

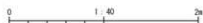
0. 埋土
 1. 10YR2/7赤褐色シルト 粘性:強 締:やや密 黄褐色土ブロック(埋土層)少量入る
 2. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性:強 締:やや密 灰化粘粒微量入る 黄褐色土ブロック(埋土層)少量入る
 3. 10YR4/4褐色シルト 粘性:弱 締:種 地山土粒 (IV層) 少量入る
 4. 10YR4/4褐色シルト 粘性:弱 締:種 地山砂礫土 (V層) エブロック状に少量入る
 5. 10YR3/2土間褐色シルト 粘性:やや強 締:やや密 黄褐色土粒(埋土層)少量入る

24号陥し穴状遺構



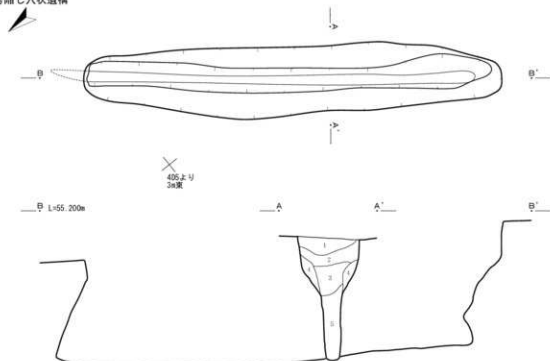
24号陥し穴状遺構

1. 10YR2/3赤褐色シルト 粘性:弱 締:やや密 粗粒土多し 黄褐色土粒微量入る
 2. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性:弱 締:種 黄褐色土粒微量入る
 3. 10YR3/3暗褐色シルト 粘性:やや強 締:やや密 地山砂礫層土がブロック状に入る
 4. 10YR4/4褐色砂質シルト 粘性:弱 締:種 地山砂礫層土粒 (V層) が少量入る (径1~2mm)
 5. 10YR4/4褐色砂質シルト 粘性:強 締:種 地山砂礫層土粒 (V層) が少量入る (径4~5mm)
 6. 10YR5/6黄褐色シルト 粘性:強 締:密 地山土 (V層) がブロック状に入る



第22図 23・24号陥し穴状遺構

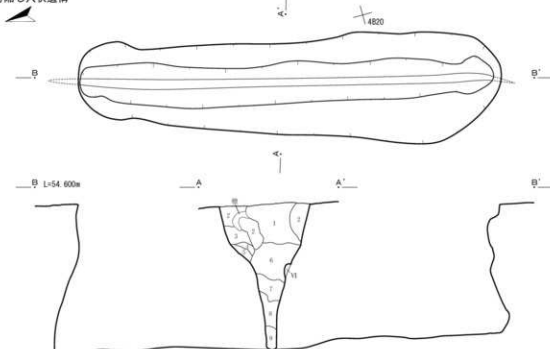
25号陥し穴状遺構



25号陥し穴状遺構

1. 101K2 3階褐色シルト 粘性:弱 締:緩 埋埋土多し 炭化物粒数多く入る
 2. 101R4 4階褐色シルト 粘性:弱 締:緩 炭化物粒少量入る
 3. 101R2 2階黄褐色シルト 粘性:弱 締:緩 埋埋土多し 堆山土粒が少量入る
 4. 101R5 6階褐色シルト 粘性:強 締:緩 埋埋土土ブロックが少量入る 崩落土
 5. 101K2 2階褐色シルト 粘性:弱 締:緩 堆山砂礫層状 (V層) が少量入る

26号陥し穴状遺構



26号陥し穴状遺構

1. 101K2 2階褐色シルト 粘性:強 締:密 赤褐色土粒2%含有
 2. 101R4 4階褐色シルト 粘性:中 締:中 山吹色土粒含有
 3. 101R1 6階褐色シルト 粘性:中 締:中 山吹色土粒含有
 4. 101R4 4階褐色シルト 粘性:中 締:中 山吹色土粒含有
 5. 101R1 6階褐色シルト 粘性:中 締:中 山吹色土粒含有
 6. 101R4 4階褐色シルト 粘性:中 締:中 山吹色土粒含有
 7. 101R1 6階褐色シルト 粘性:中 締:中 山吹色土粒含有
 8. 101R5 8階褐色シルト 粘性:強 締:緩 崩落土土ブロックが少量入る
 9. 101R5 8階褐色シルト 粘性:強 締:緩 崩落土土ブロックが少量入る

0 1:40 2m

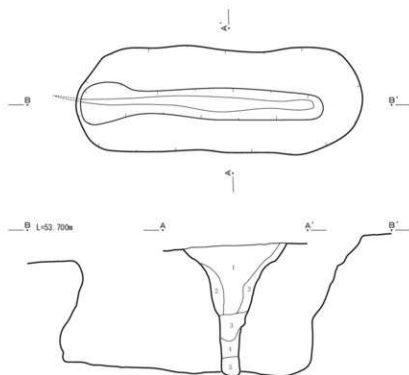
第23図 25・26号陥し穴状遺構

2. 検出遺構

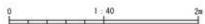
27号陥し穴状遺構



3C25

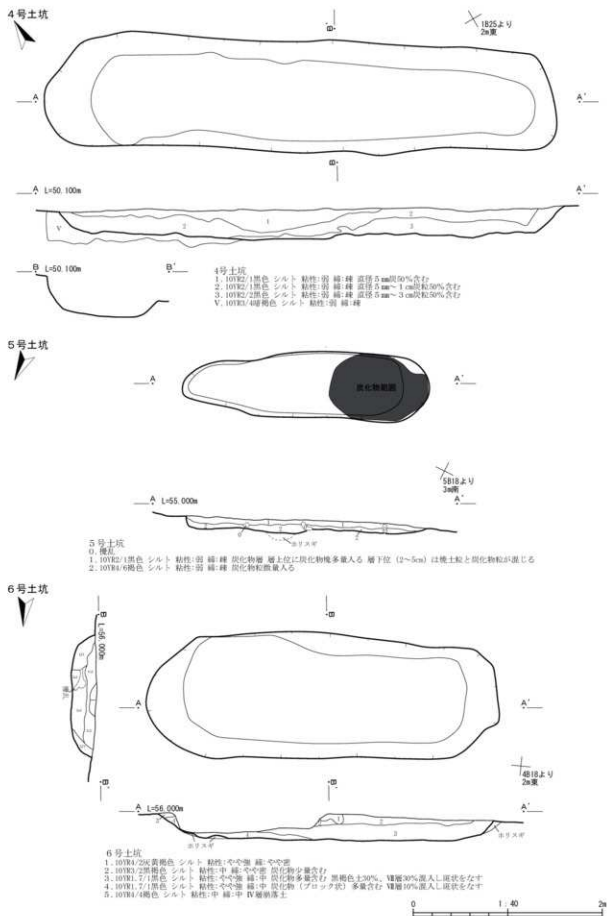


- 27号陥し穴状遺構
1. 10YR2/3暗褐色 シルト 粘性：弱・粘・粘 細礫と多い 炭化物粒少量入る
 2. 10YR4/6褐色 シルト 粘性：強・粘・粘 中密 砂礫粒少量入る 崩落土
 3. 10YR2/3暗褐色 シルト 粘性：弱・粘・粘 中密 砂礫粒少量入る
 4. 10YR2/6黄褐色 砂質シルト 粘性：弱・粘・粘 地山砂礫粗土 (V層) 少量入る 崩落土
 5. 10YR2/3暗褐色 シルト 粘性：弱・粘・粘 中密 黄褐色土がブロック状に入る



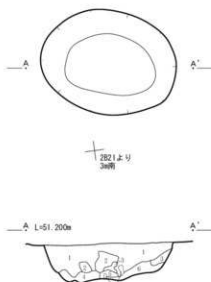
第24図 27号陥し穴状遺構

2. 検出遺構



第26図 4~6号土坑

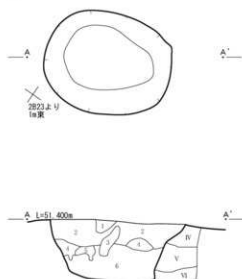
7号土坑



7号土坑

1. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性:強 締:やや硬
直径3mm~1cm炭粒30%、直径3mm褐色土粒10%含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト 粘性:強 締:硬 炭50%含む
3. 10YR4/4褐色シルト 粘性:弱 締:硬 直径3mmの褐色土粒10%含む
4. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性:強 締:硬 炭粒5%含む
5. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性:中 締:硬 炭粒50%、褐色土粒5%含む
6. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性:中 締:硬 褐色土粒3%含む

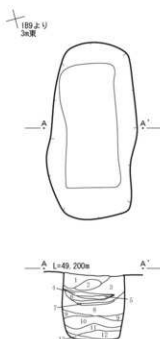
8号土坑



8号土坑

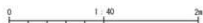
1. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性:やや強 締:中 炭粒5%含む
2. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性:弱 締:やや硬 炭粒20%含む
3. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性:弱 炭粒5%含む
4. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性:弱 締:やや硬
直径3%、直径5mm褐色土粒5%含む
5. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性:やや強 締:中 褐色土粒30%含む
6. 10YR5/4暗褐色シルト 粘性:弱 締:硬 褐色土粒10%含む
IV. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性:弱 締:やや硬 炭粒5%含む
V. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性:弱 締:やや硬 褐色土粒20%含む
VI. 10YR4/6褐色シルト 粘性:やや強 締:中

9号土坑



9号土坑

1. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性:中 締:中
2. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性:やや強 締:中 褐色土ブロック含む
3. 10YR4/6褐色シルト 粘性:やや強 締:中 褐色土ブロック含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性:やや強 締:中
5. 10YR4/6褐色シルト 粘性:やや強 締:中 褐色土ブロック含む
6. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性:やや強 締:中
7. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性:やや強 締:中
8. 10YR4/6褐色シルト 粘性:やや強 締:中 褐色土ブロック少量含む
9. 10YR4/4褐色シルト 粘性:中 締:硬
10. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性:やや強 締:中
11. 10YR4/4褐色シルト 粘性:中 締:硬
12. 10YR3/2黒褐色シルト 粘性:やや強 締:中
13. 10YR4/4褐色シルト 粘性:中 締:硬



第27図 7～9号土坑

2 検出遺構

1号焼土



1010より
2m南



L=49.800m



1号焼土

1. 1010E/2黄褐色 シルト 粘性:中 締:中 炭粒 直径3mm混和20%含む
 2. 1010E/4(1)黄褐色 シルト 粘性:弱 締:中
 V. 1010E/4褐色 シルト 粘性:弱 締:弱

2号焼土



1014より
2m南



L=49.100m



2号焼土

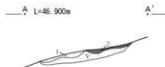
1. 1014E/6褐色 シルト 粘性:中 締:弱
 V. 1013E/6褐色 シルト 粘性:中 炭粒 直径3mm混和10%含む

3号焼土



1182より
2m東

L=46.900m



3号焼土

1. 1012E/2黄褐色 シルト 粘性:中 締:中 炭粒60%・褐色土粒10%含む
 2. 1012E/6黄褐色 シルト 粘性:弱 締:中
 V. 1012E/4褐色 シルト 粘性:弱 締:中

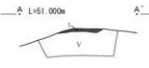
4号焼土



1281より
2m東



L=51.000m



4号焼土

1. 1015E/6黄褐色 シルト 粘性:弱 締:中
 V. 1013E/4褐色 シルト 粘性:中 締:弱



第28図 1～4号焼土

5号焼土



5号焼土

1. 53R1.6明赤褐色 シルト 粘性:弱 締:中
 2. 103R1.6暗褐色 シルト 粘性:弱 締:やや硬
 3. 103R1.4褐色 シルト 粘性:中 締:硬 炭ダケ少量含む

6号焼土



6号焼土

1. 53R1.6明赤褐色 シルト 粘性:弱 締:中
 V. 103R1.4褐色 シルト 粘性:中 締:硬

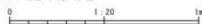
2816

7号焼土



7号焼土

1. 53R1.5/6赤褐色~明赤褐色 シルト 粘性:中 締:やや硬
 暗褐色土20%混入する
 2. 103R1.3暗褐色 シルト 粘性:中 締:やや硬
 3. 103R1.4暗褐色 シルト 粘性:中 締:やや硬
 炭化物少量含む
 VI. 103R1.6褐色 シルト 粘性:やや強 締:密



V 出土遺物

調査で出土した遺物の総量は、土器大コンテナ(42×32×40cm)5箱(総重量20.7kg)、石器類小コンテナ(42×32×10cm)3箱70点(総重量11.9157kg)、土製品5点である。ここでは遺構内及び遺構外出土遺物を報告する。

I 土 器

土器は縄文時代後期初頭が大部分で、晩期後葉・弥生時代・古代の小破片が数片出土している。

I群 後期初頭

所謂蛭沢式(本間1987)、馬立式(鈴木1998)、葉師前式(鈴木2001)、小牧野3期(児玉1999)にみられる土器をまとめた。

A類 方形文(1・23・24・34・70・71・72・140)

B類 三角形文(48・50・51・63・64・65・110・111・112・116・120・133)

C類 曲線文(弧状文)(11・32)

D類 網目状撚糸文(14・25・38・81・82・83)

E類 縄文(5～9・15～19・22・26・28・30・33・39・45～49・52・57・59・60・62・84～101・127・128・134・143～145・148)

F類 無文(73・79・80・117～119)

II群 晩期後葉

工字文を主体とする土器破片が遺構外1B・2Bグリッドから出土している(55・56・76・77・78)。

III群 弥生時代

4Cグリッドから弥生時代中期の土器破片が出土している(141)。

IV群 古代

3号土坑からロクロ成形土師器破片が出土している(43)。器形及び調整から鉢と考えられる。

2 石 器

遺構内外から石器が70点出土しており、遺構内出土資料を中心に37点を掲載した。

(1)スクレーパー及び微細剥離のある剥片は9点出土し、8点掲載した(155・159・166・167・168・169・170・172)。石材は頁岩7点、細粒花崗閃緑岩・チャート各1点である。

(2)剥片は28点出土しており、7点掲載した(153・154・158・161・163・165・171)。石材は頁岩11点、細粒花崗閃緑岩7点、チャート4点、ホルンフェルス2点、かんらん岩・凝灰岩・砂岩・ヒン岩各1点である。

(3)磨製石斧は3点出土し、全点掲載した(173・174・175)。石材は全点細粒花崗閃緑岩である。

(4)板状石器は3点出土し、全点掲載した(184・185・186)。石材は凝灰岩2点、花崗岩1点である。

(5)礫器は4点出土し、遺構内出土の3点を含め4点掲載した(151・162・164・176)。石材は細粒花崗閃緑岩2点、デイサイト・ヒン岩各1点である。

(6)半円状扁平打製石器は1点出土している(177)。石材は砂岩である。

(7)磨石は2点出土し、1点掲載した(178)。石材は2点とも花崗閃緑岩である。

(8)敲石は8点出土し、4点掲載した(152・181・182・183)。石材はチャート6点、はんれい岩・砂

岩各1点である。

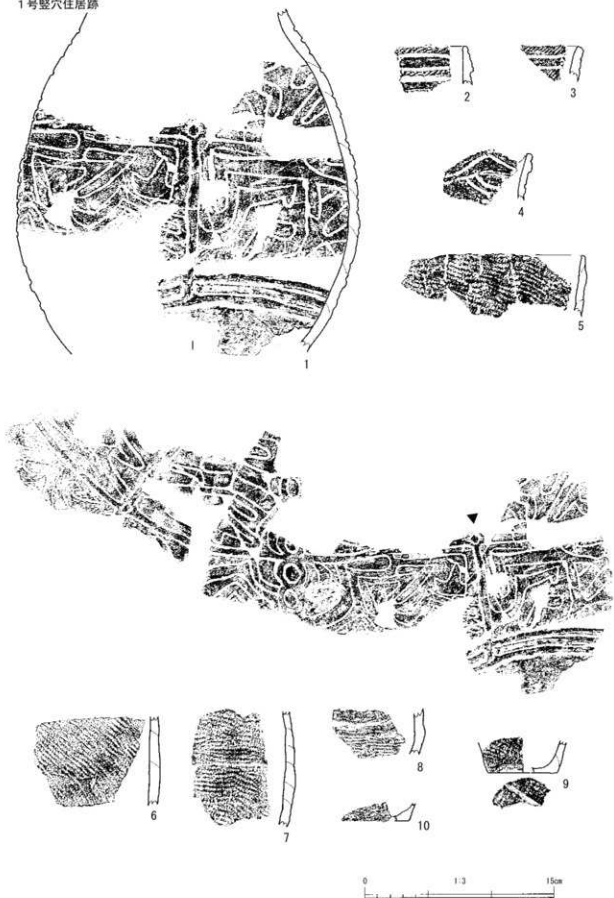
- (9)磨礫石は3点出土し、2点掲載した(179・180)。石材はヒン岩・デイサイト・石英斑岩各1点である。
- (10)凹石は1点出土した(156)。花崗閃緑岩である。
- (11)石皿は1点出土した(157)。石材は細粒花崗閃緑岩である。
- (12)砥石は1点出土している(160)。石材は安山岩である。

3 土製品

土玉1点、土器片円板2点、土錘1点、鐔形土製品1点出土しており全点掲載した。

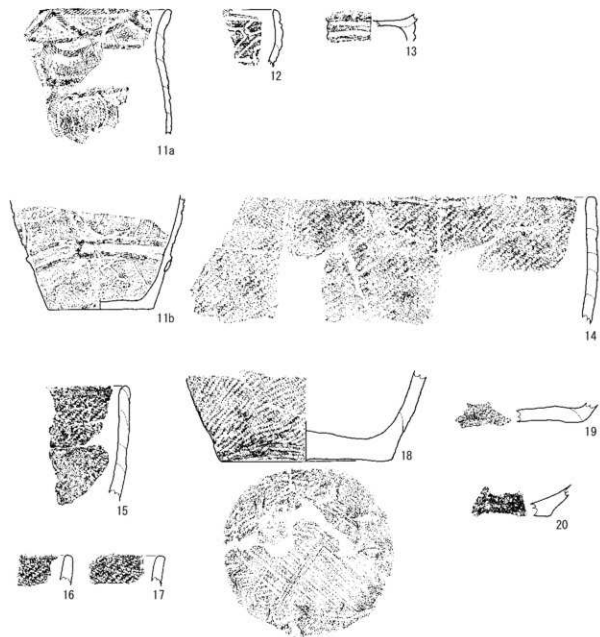
土玉は2号竪穴住居跡炉外側と壁の間から出土した。2.15×2.2cmの円形、厚さは0.8cmである。中央の穿孔があり、平滑な面を上にすると、下面の穿孔周辺に粘土の盛り上がりがあり、上から下に向けて穿孔が施されたと考えられる。文様は施されていない。土器片円板2点は1号土坑の覆土中位から出土した。(189)は周辺打ち欠き、(188)は打ち欠き後にスレ面が一部認められる。土錘は重機による表土掘削直下、ジョレンによる遺構検出作業中に出土した。周辺には5号焼土があるが、斜面地にあたり関連は不明である。長さ4.3cm・幅2.25cm・厚さ2.15cmで、直径0.5cmの穿孔が施される。表面は平滑に磨かれており、部分的に器面の剥落が認められる。鐔形土製品は破片で、残存範囲の高さ4.2cm、横3.8cm、器厚0.4cmである。文様は施されていない。

1号竖穴住居跡

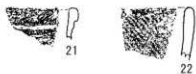


第30圖 1号竖穴住居跡出土土器

2号竪穴住居跡



3号竪穴住居跡

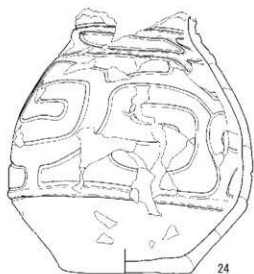


第31圖 2・3号竪穴住居跡出土土器

3号竖穴住居跡



23

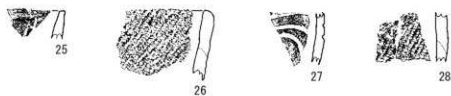


24



第32圖 3号竖穴住居跡出土土器

4号竪穴住居跡



10号陥し穴状遺構



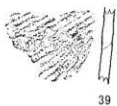
19号陥し穴状遺構



1号土坑



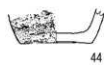
2号土坑



3号土坑



7号土坑



第33図 4号竪穴住居跡、10・19号陥し穴状遺構、1・2・3・7号土坑出土土器

8号土坑



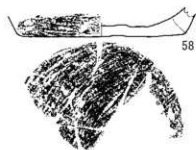
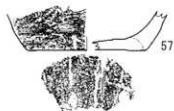
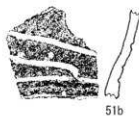
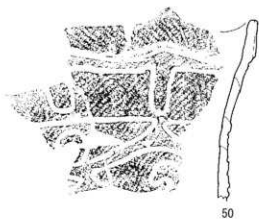
9号土坑



1Aグリッド



1Bグリッド



第34図 8・9号土坑、1A・1Bグリッド出土土器

2Aグリッド



62

2Bグリッド



63



64



65



66



67



68



69



70



71



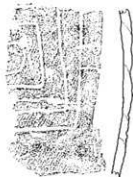
73



74



75



72



76



77



78



79



80



81

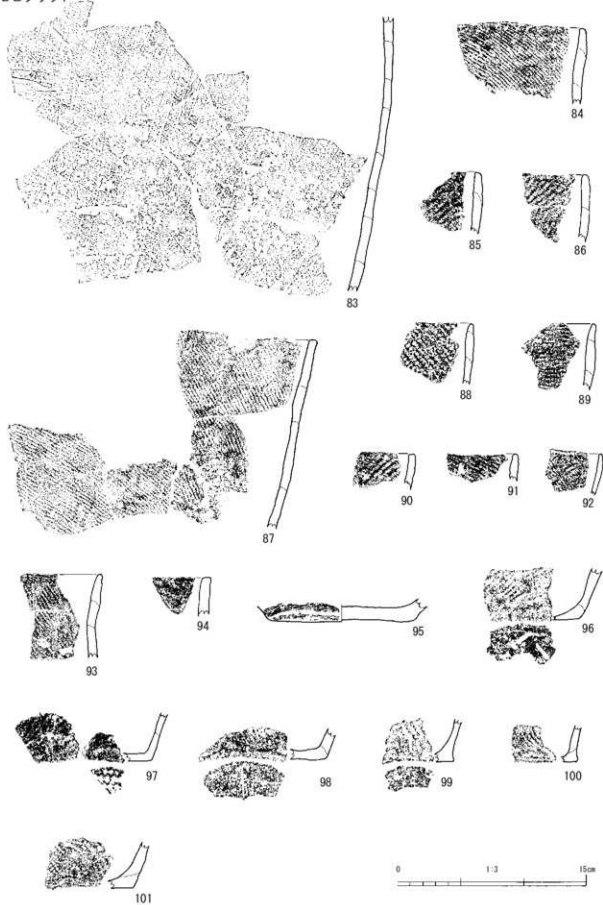


82



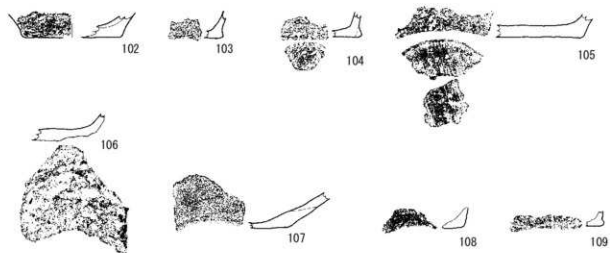
第35図 2A・2Bグリッド出土土器

2Bグリッド

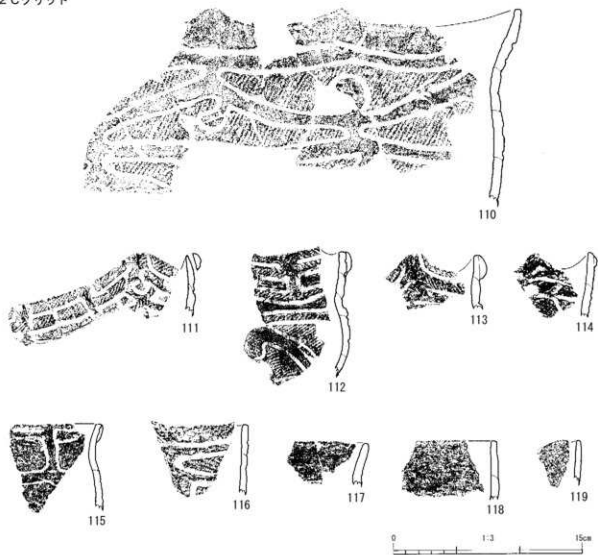


第36図 2Bグリッド出土土器

2Bグリッド

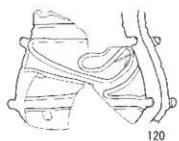


2Cグリッド

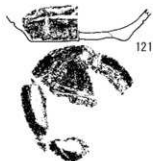


第37図 2B・2Cグリッド出土土器

2Cグリッド



120



121



122



123



124

3Bグリッド



125



126



127



128



129

3Cグリッド



130



131



132



133



134



135



136



第38図 2C・3B・3Cグリッド出土土器

4 B グリッド



137



138



139



140

4 C グリッド



141



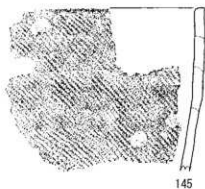
142



143



144



145



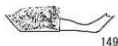
146



147



148



149

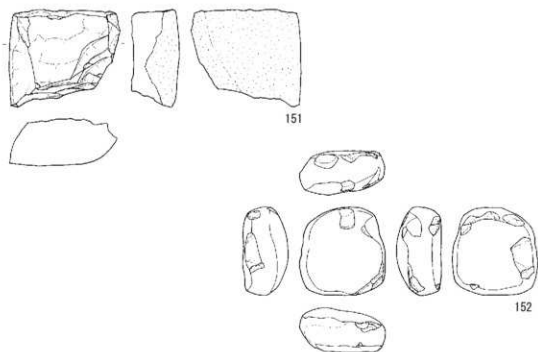


150

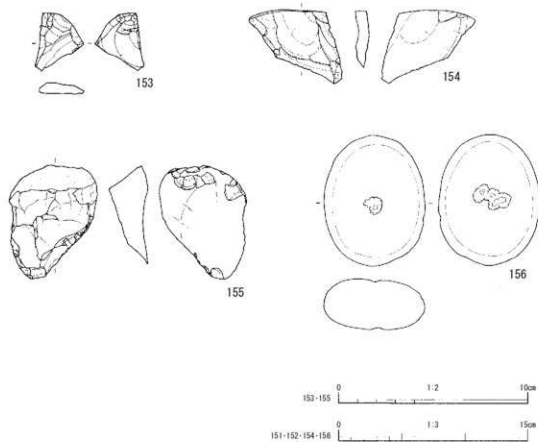


第39図 4 B・4 C グリッド出土土器

1号竖穴住居跡

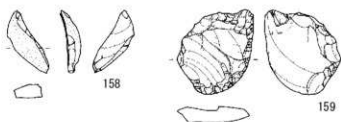
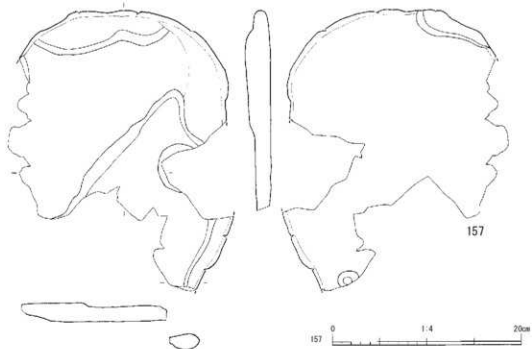


2号竖穴住居跡

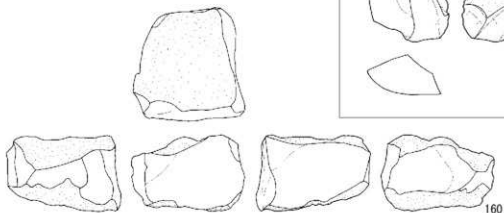


第40圖 1・2号竖穴住居跡出土石器

3号竪穴住居跡



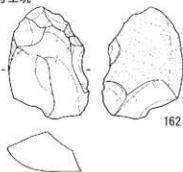
15号陥し穴状遺構



19号陥し穴状遺構

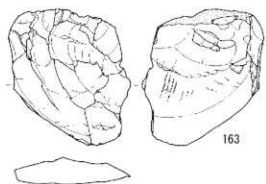


1号土坑

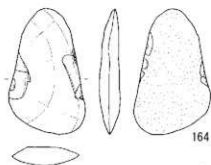


第41図 3号竪穴住居跡、15・19号陥し穴状遺構、1号土坑出土石器

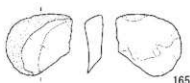
3号土坑



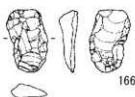
163



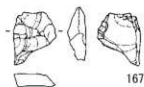
164



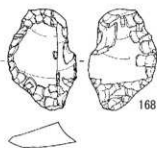
165



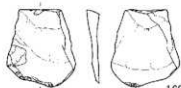
166



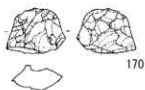
167



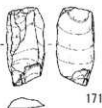
168



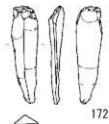
169



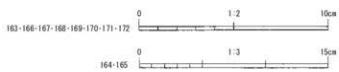
170



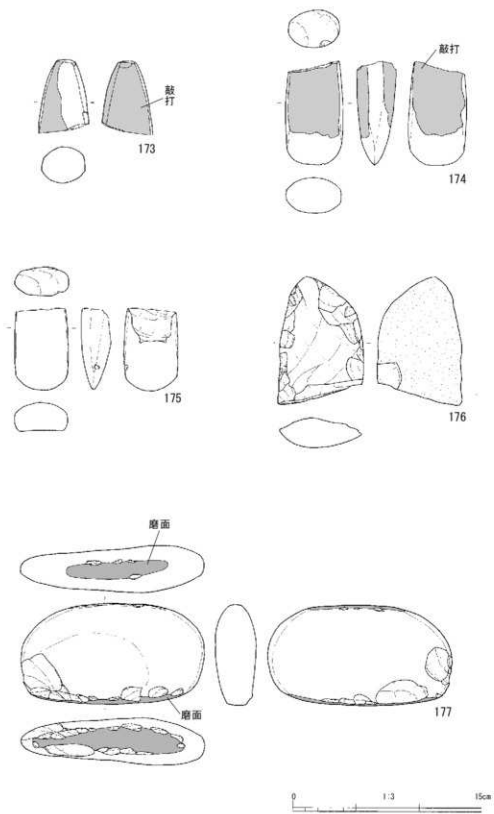
171



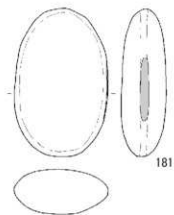
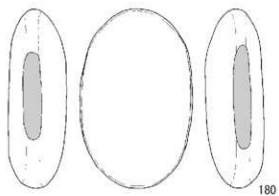
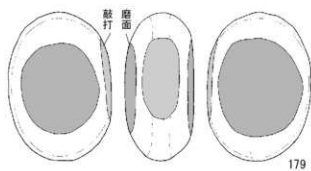
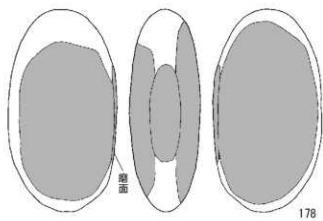
172



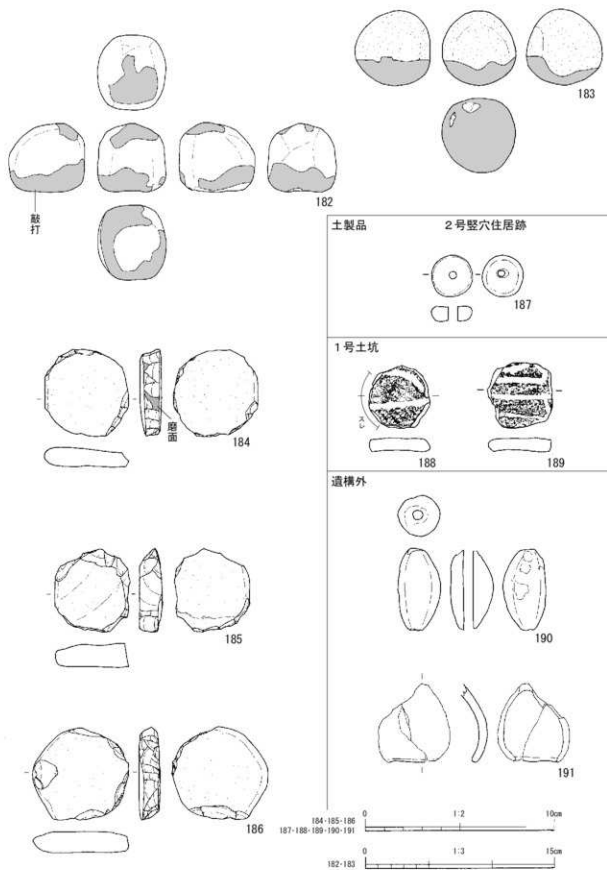
第42图 3号土坑、遺構外出土石器(1)



第43圖 遺構外出土石器(2)



第44圖 遺構外出土石器(3)



第45図 遺構外出土石器(4)、土製品

第2表 土器観察表

番号	器種	部位	出土地点	出土層位	文様的特徴	口径・底径・ 台径 (cm)	分類	備考
1	甕	胴部	1号壑穴住居跡	Q4 灰土		胴部最大径 27	I A	
2	深鉢	口縁部	1号壑穴住居跡	礫土	組		I	
3	深鉢	口縁部	1号壑穴住居跡	灰面直上	組		II	
4	深鉢	口縁部	1号壑穴住居跡	灰面直上			II	
5	深鉢	口縁部	1号壑穴住居跡	灰面直上		12	I E	
6	深鉢	胴部	1号壑穴住居跡		LR		I E	
7	深鉢	胴部	1号壑穴住居跡		LR		I E	
8	深鉢	胴部	1号壑穴住居跡		LR		I E	
9	深鉢	底面	1号壑穴住居跡	灰面直上		5.4	I E	
10	深鉢	底面	1号壑穴住居跡	礫土		11.5	—	
11a	深鉢	口縁部	2号壑穴住居跡	如前		20	I C	11bと同一個体
11b	深鉢	底面	2号壑穴住居跡	礫土中位	組、外面残存着	8.4	I C	11aと同一個体
12	鉢	口縁部	2号壑穴住居跡	灰面直上			B	
13	台付浅鉢	内面	2号壑穴住居跡	IV層上面		9	II	
14	深鉢	口縁部	2号壑穴住居跡	礫土中位	組、外面残存着	27	I D	
15	深鉢	口縁部	2号壑穴住居跡	礫土中位	組		I E	
16	深鉢	口縁部	2号壑穴住居跡	IV層上面	組		I E	
17	深鉢	口縁部	2号壑穴住居跡	礫土中位	組		I E	
18	深鉢	底面	2号壑穴住居跡	礫土中位西側部	組	13.4	I E	
19	深鉢	底面	2号壑穴住居跡	礫土中位	組	8.8	—	
20	深鉢	底面	2号壑穴住居跡	IV層上面		6.2	I	
21	深鉢	口縁部	3号壑穴住居跡		LR、波状口縁		—	
22	深鉢	口縁部	3号壑穴住居跡		LR		I E	
23	甕	略尖形	3号壑穴住居跡	土器左	I 文様帯 6 単位、II a 文様帯 5 単位、 且も文様帯 10 単位		I A	
24	甕	略尖形	3号壑穴住居跡	土器右	I 文様帯 4 単位、II 文様帯 4 単位		I A	
25	深鉢	口縁部	4号壑穴住居跡	IV層上面	網目状模文 I		I D	
26	深鉢	口縁部	4号壑穴住居跡	IV層上面	組		I E	
27	深鉢	口縁部	4号壑穴住居跡	IV層上面	赤彩		I B	
28	深鉢	口縁部	4号壑穴住居跡	IV層上面	組		I E	
29	深鉢	口縁部	10号陥し穴状遺構	本組下黒褐色土	組、波状口縁		II	
30	深鉢	口縁部	10号陥し穴状遺構	本組下黒褐色土			I E	
31	深鉢	底面	10号陥し穴状遺構	黒褐色土	底面本組色?	9.1	—	
32	深鉢	底面	10号陥し穴状遺構	IV層上面	LR		I C	
33	深鉢	口縁部	19号陥し穴状遺構	IV層上面	I		I E	
34	深鉢	口縁部	19号陥し穴状遺構	礫土中位	隆起区画		I A	
35	鉢?	胴部	19号陥し穴状遺構	IV層上面	赤彩		II	
36	深鉢	口縁部	19号陥し穴状遺構	IV層上面	LR?		III	
37	深鉢	底面	1号土坑	礫土中位			—	
38	深鉢	口縁部	2号土坑	IV層上面から 25 ~ 30 cm F層	網目状模文 I、外面残存着		I D	
39	深鉢	胴部	2号土坑	サトレンジ	LR、縞線多く含む		I E	
40	深鉢	底面	2号土坑	礫土中位		9.7	—	
41	深鉢	胴部	3号土坑	礫土上位			II	
42	深鉢	胴部	3号土坑	礫土中位	LR		II	
43	土師器	胴部	2号土坑	礫土中位	内面下位ロクロ、上位押圧		IV	
44	深鉢	底面	7号土坑	下層		6.1	—	
45	深鉢	胴部	8号土坑	上層	組、外面残存着		I E	
46	深鉢	口縁部	9号土坑	一底	I、外面残存着		I E	
47	深鉢	底面	9号土坑	一底	LR	11.8	I E	
48	深鉢	口縁部	1A24	IV層上面	組、波状口縁		I B	
49	深鉢	底面	1A25	IV層上面		8.6	I E	
50	深鉢	口縁部	1B5	IV層上面	組、波状口縁	23	I B	
51	深鉢	口縁部・胴部	1B19	IV層上面	口縁部直、内面上部模調製、胴部 破片残存着		I B	
52	深鉢	口縁部	1B13	IV層上面	組、外面残存着		I E	
53	深鉢	口縁部	1B13	IV層上面	外面残存、残存着		I	
54	深鉢	口縁部	1B19	IV層上面			II	
55	深鉢	口縁部	1B13	IV層上面			II	
56	台付浅鉢	口縁部	1B14	IV層上面	赤彩		II	
57	深鉢	底面	1B13	IV層上面		19	I E	
58	深鉢	底面	1B13	IV層上面		13.2	—	文化源試掘出土表録
59	深鉢	底面	1B8	IV層上面	LR	14.7	I E	
60	深鉢	底面	1B13	IV層上面	組	11.4	I E	
61	深鉢	底面	1B14	IV層上面		13.2	—	
62	深鉢	口縁部	2A21				I E	
63	深鉢	口縁部	2B21	IV層上面	LR、外面残存着、波状口縁	26	I B	
64	深鉢	口縁部	2B16	IV層上面			I B	
65	深鉢	口縁部	2B17	IV層上面	口縁部 LR、外面残存・残存着		I B	
66	深鉢	口縁部	2B23	IV層上面	LR		II	
67	深鉢	口縁部	2B25	IV層上面	LR		II	
68	深鉢	口縁部	2B25	IV層上面	組		II	
69	深鉢	胴部	2B10	IV層上面	赤彩		II	
70	鉢	口縁部	2B16	IV層上面			I A	
71	鉢	胴部	2B19	IV層上面	赤彩		I A	
72	深鉢	胴部	2B16	IV層上面	組、外面残存着		I A	
73	深鉢	口縁部	2B9	IV層上面			I B	

番号	器種	部位	出土地点	出土層位	文様他特徴	口径・底径・台径 (cm)	分類	備考
74	深鉢	口縁部	2823	IV層上面	口縁部外面焼熱、横行着		I	
75	深鉢	口縁部	2824	IV層上面	外面横行着、波状口縁		I	
76	深鉢	口縁部	2811	IV層上面	工字文、LR		II	77・78と同一體か
77	深鉢	口縁部	2811	IV層上面	横行着		II	76・78と同一體か
78	深鉢	口縁部	2811	IV層上面			II	76・77と同一體か
79	深鉢	口縁部	281	IV層上面	無文、外面調整粗く輪縁残存		I P	
80	深鉢	口縁部	2811	IV層上面	ヨコナゲ	21.4	I P	286と適合
81	深鉢	口縁部	289	IV層上面	縦目状横系文Ⅱ		I D	82・83と同一體か
82	深鉢	胴部	289	IV層上面			I D	81・83と同一體か
83	深鉢	胴部	289	IV層上面	縦目状横系文Ⅰ字		I D	81・82と同一體か
84	深鉢	口縁部	2824	IV層上面	LR、外面横行着	16	I E	
85	深鉢	口縁部	2823	IV層上面	RL、外面横行着		I E	
86	深鉢	口縁部	2823	IV層上面	LR、外面横行着		I E	
87	深鉢	口縁部	2824	IV層上面	RL、外面上位横行着	17	I E	
88	深鉢	口縁部	2816	IV層上面	LR		I E	
89	深鉢	口縁部	288	IV層上面	LR		I E	
90	深鉢	口縁部	2823	IV層上面	粗、外面横行着		I E	
91	深鉢	口縁部	2823	IV層上面	LR		I E	
92	深鉢	口縁部	2812	IV層上面	L、外面横行着	10	I E	
93	深鉢	口縁部	286	IV層上面	LR、口縁部LR押圧		I E	
94	深鉢	口縁部	2814	IV層上面			I E	
95	深鉢	胴部	2811	IV層上面		11.1		
96	深鉢	胴部	2819	IV層上面		7.6	I E	
97	深鉢	胴部	2823	IV層上面	粗	5.5	I E	
98	深鉢	胴部	2825	IV層上面	粗	10.4	I E	
99	深鉢	胴部	2813	IV層上面		8.2	I E	
100	深鉢	胴部	2813	IV層上面	粗、外面横行着	4.2	I E	
101	深鉢	胴部	286	IV層上面	LR	8.5	I E	
102	深鉢	胴部	2816	IV層上面		8.2	—	
103	深鉢	胴部	2811	IV層上面		3.8	—	
104	深鉢	胴部	2825	IV層上面		5.7	—	
105	深鉢	胴部	2823	IV層上面		9.2	—	
106	深鉢	胴部	2824	IV層上面	外面剥落	—	—	
107	深鉢	胴部	283	IV層上面		13.6	—	
108	深鉢	胴部	2816	IV層上面		6.7	—	
109	深鉢	胴部	288	IV層上面		8.1	—	
110	深鉢	口縁部	283	IV層上面	粗、外面横行着、波状口縁	18	I B	
111	深鉢	口縁部	289	IV層上面	LR、波状口縁	18	I B	112と同一體か
112	深鉢	口縁部	288	IV層上面			I B	111と同一體か
113	深鉢	口縁部	285	IV層上面	粗、波状口縁		I B	
114	深鉢	口縁部	288	IV層上面	粗、波状口縁		II	
115	深鉢	口縁部	284	IV層上面			II	
116	深鉢	口縁部	284	IV層上面	LR、波状口縁		I B	
117	深鉢	口縁部	288	IV層上面			I P	
118	深鉢	口縁部	284	IV層上面			I P	
119	小形深鉢	口縁部	284	IV層上面			I P	
120	扁平土器	胴部	284	IV層上面	赤彩		I B	
121	深鉢	胴部	208	IV層上面		8.2	I	
122	深鉢	胴部	284	IV層上面		4	—	
123	深鉢	胴部	285	IV層上面		10.4	—	
124	深鉢	胴部	2810	IV層上面		6.1	—	
125	深鉢	口縁部	2813	IV層上面	LR、波状口縁	30	II	
126	深鉢	口縁部	285	IV層上面	外面上部剥落	7	II	
127	深鉢	口縁部	2813	IV層上面	粗		I E	
128	深鉢	胴部	2813	IV層上面	粗	7.6	I E	
129	深鉢	胴部	2812	IV層上面	外面上位剥落	—	—	
130	深鉢	口縁部	2817	IV層上面	粗、波状口縁		II	
131	深鉢	口縁部	288	IV層上面			II	
132	深鉢	口縁部	281	IV層上面	LR		II	
133	深鉢	口縁部	288	IV層上面	LR		I B	
134	深鉢	胴部	288	IV層上面	LR	—	I E	
135	深鉢	胴部	288	IV層上面	LR	—	—	
136	深鉢	胴部	281	IV層上面		7.4	—	
137	深鉢	口縁部	4824	IV層上面	LR		I B ?	
138	深鉢	口縁部	4824	IV層上面	粗		I E	
139	鉢	口縁部	4811	IV層上面			I B	
140	ミナチュア	胴部	4811	IV層上面	L	2.9	I A	
141	深鉢	口縁部	482	IV層上面			II	
142	深鉢	胴部	481	IV層上面		6.4	—	
143	深鉢	口縁部	文化課試掘	IV～V層上面	粗、外面横行着	32	I E	
144	深鉢	口縁部	文化課試掘	IV～V層上面	LR		I E	
145	深鉢	口縁部	文化課試掘	IV～V層上面	LR、外面横行着		I E	
146	深鉢	口縁部	表探	LR			I - II B	
147	深鉢	口縁部	表探	LR			II	
148	深鉢	胴部	文化課試掘	IV層上面		8.9	I E	
149	深鉢	胴部	文化課試掘	IV層上面	車輪筋条体Ⅱ	6.4	II	
150	深鉢	胴部	文化課試掘	IV層上面		10.2	—	

第3表 石器観察表

法量 (cm) () 内種付種

番号	器種	出土地点	出土層位	長軸	短軸	厚さ	重量 (g)	石材	備考
151	礮石	1号惣穴住居跡	床面直上	7.7	8.75	3.82	396.0	細粒花崗閃緑岩 (北上山地、中生代白亜紀)	
152	礮石	1号惣穴住居跡	礮土	7	6.75	3.57	303.9	粗粒花崗閃緑岩 (北上山地、中生代白亜紀)	
153	削片	2号惣穴住居跡	礮土中位	3.13	2.38	0.68	4.0	頁岩 (北上山地、中生代)	
154	削片	2号惣穴住居跡	礮土中位	5.63	7.5	1.28	80.1	細粒花崗閃緑岩 (北上山地、中生代白亜紀)	
155	スクレイパー	2号惣穴住居跡	礮土中位	5.94	4.69	2.16	60.9	チャート (北上山地、中生代)	
156	刮石	2号惣穴住居跡	礮土中位	10.26	7.89	3.92	482.5	花崗閃緑岩 (北上山地、中生代白亜紀)	
157	石鏝	3号惣穴住居跡	礮土中位	28.8	25.8	2.7	1316.4	砂岩	
158	削片	3号惣穴住居跡	礮土	3.25	2.13	0.75	3.7	頁岩 (北上山地、中生代)	
159	スクレイパー	3号惣穴住居跡	礮土	4.72	3.83	0.95	18.3	頁岩 (北上山地、中生代)	
160	礮石	15号掘し穴状遺構	礮土中位	6.13	9.1	9.22	188.0	火山岩 (養羽山層、新石器第四期)	
161	削片	19号掘し穴状遺構	礮土	2.71	2.69	0.74	3.9	頁岩 (北上山地、中生代)	
162	礮石	1号土坑	礮土中位	9.23	6.41	9.22	191.4	ヒン岩 (北上山地、中生代白亜紀)	
163	削片	3号土坑	礮土中位	7.22	6.45	1.96	83.8	チャート (北上山地、中生代)	
164	礮石	3号土坑	礮土上位	10.04	6.04	3.22	112.4	細粒花崗閃緑岩 (北上山地、中生代白亜紀)	
165	削片	3号土坑	礮土上位	4.92	5.33	1.34	38.7	細粒花崗閃緑岩 (北上山地、中生代白亜紀)	
166	スクレイパー	2825	IV層上面	3.31	2.15	0.95	5.7	頁岩 (北上山地、中生代)	
167	スクレイパー	286	IV層上面	2.74	2.32	0.91	5.1	頁岩 (北上山地、中生代)	
168	スクレイパー	2819	IV層上面	5.37	3.64	1.47	28.2	頁岩 (北上山地、中生代)	
169	スクレイパー	288	IV層上面	4.1	3.59	0.76	10.1	頁岩 (北上山地、中生代)	
170	スクレイパー	286	IV層上面	2.35	3.03	1.25	8.7	頁岩 (北上山地、中生代)	
171	削片	1C5	IV層上面	4.14	2.14	0.6	5.8	頁岩 (北上山地、中生代)	
172	熊鷹型剥片	365	IV層上面	5.11	1.35	0.73	3.8	頁岩 (北上山地、中生代)	
173	磨製石斧	2817	IV層上面	(5.58)	(3.92)	(3.06)	97.5	細粒花崗閃緑岩 (北上山地、中生代白亜紀)	
174	磨製石斧	2817	IV層上面	(8.19)	(4.44)	(3.04)	182.3	細粒花崗閃緑岩 (北上山地、中生代白亜紀)	
175	磨製石斧	2C3	IV層上面	(6.54)	(4.26)	(2.30)	107.1	細粒花崗閃緑岩 (北上山地、中生代白亜紀)	
176	礮石	2824	IV層上面	(10.29)	(6.89)	(2.49)	216.6	チャート (北上山地、中生代白亜紀)	
177	半円状扁平打製石器	1A25	IV層上面	7.99	14.55	3.2	614.9	砂岩 (北上山地、中生代)	
178	磨石	1A24	IV層上面	16	8.6	5.59	920.6	花崗閃緑岩 (北上山地、中生代白亜紀)	
179	磨石	2819	IV層上面	11.77	8.23	5.43	744.9	チャート (原野山層、中生代白亜紀)	
180	礮石	2A22	IV層上面	14.16	8.82	4.75	1161.9	ヒン岩 (北上山地、中生代白亜紀)	
181	礮石	2821	IV層上面	11.64	7.35	3.53	454.1	砂岩 (北上山地、中生代)	
182	礮石	2823	IV層上面	5.4	5.4	6.01	281.3	チャート (北上山地、中生代)	
183	礮石	285	IV層上面	5.9	5.75	5.83	274.4	チャート (北上山地、中生代)	
184	板状石器	384	IV層上面	4.56	4.51	1.07	29.7	燧石 (北上山地、中生代)	
185	板状石器	2819	IV層上面	4.4	4.04	1.25	33.0	花崗岩 (北上山地、中生代白亜紀)	
186	板状石器	2C3	IV層上面	4.83	5.04	1.89	33.9	燧石 (北上山地、中生代)	

第4表 土製品観察表

番号	種別	出土位置	出土層位	長軸	短軸	厚さ	重量 (g)	備考
187	土玉	2号惣穴住居跡	床面	2.2	2.2	0.8	3.85	
188	土器片四板	1号土坑	礮土中位	3.3	3.2	0.8	8.66	
189	土器片四板	1号土坑	礮土中位	3.5	3.4	0.8	10.25	
190	土鏝	1C5	検出面	4.3	2.25	2.15	19.12	直径 0.5 cm穿孔
191	鏝形土製品	2810		4.2	3.8	0.4	10.37	

VI 自然科学分析

火山灰の同定

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県九戸郡洋野町種市に所在するサンニヤ I 遺跡は、北上山地北部の三陸海岸沿いに分布する海成段丘上に位置する。この海成段丘は、種市面に区分され、酸素同位体ステージ5eの時期すなわち最終間氷期の高海面期に形成されたと考えられている（小池ほか編, 2005）。発掘調査では、縄文時代の堅穴住居跡などの遺構や遺物が検出されている。

本分析調査では、調査区内で検出された遺構覆土中に認められた火山灰（テフラ）の可能性があるとされた堆積物を対象とし、テフラの検出同定、火山ガラスおよび斜方輝石の屈折率測定、さらには重鉱物組成および火山ガラス比分析を実施し、堆積物がテフラであることの確認と、テフラである場合には既知のテフラとの対比を行うことにより、遺構の年代に関わる資料を作成する。

1. 試料

試料はサンニヤ I 遺跡で検出された遺構の覆土より採取されたテフラ様堆積物 2点である。これらのうち 1点は、縄文時代後期初頭とされる 2号住居跡の覆土上部より採取され、1点は時期不明の炭窯とされる 6号土坑の覆土上部から採取されている。それぞれ試料名は、火山灰および灰黄褐土とされているが、本文中では遺構名（2号住および6号土坑）で試料を示す。試料の外観は、2号住にはばい黄褐色を呈する砂質シルトであり、6号土坑は暗褐色を呈する砂質シルトである。

2. 分析方法

(1) テフラの検出同定

試料約 20g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の 3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

(2) 重鉱物・火山ガラス比分析・屈折率測定

試料約 40g に水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径 1/16mm 以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径 1/4mm-1/8mm の砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約 2.96 に調整）により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて 250粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を

表1. テフラ分析結果

試料名	スコリア	火山ガラス			軽石		
	量	量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径	
2号住上面 火山灰	—	++	cl・pm, grg・pm	++	W・g, W・sg	1.8	
35号土坑 灰黄褐色土	—	++	cl・pm>>cl・bw	++	W・g, W・sg	4.0	

凡例 —:含まれない, (+):きわめて微量, +:微量, ++:少量, +++:中量, ++++:多量.
 cl:無色透明, grg:灰緑色, bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型.
 W:白色.
 g:良好, sg:やや良好, sb:やや不良, b:不良, 最大粒径はmm.

表2. 重鉱物・火山ガラス比分析結果

試料名	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
2号住上面 火山灰	151	50	3	44	2	250	0	14	15	221	250
35号土坑 灰黄褐色土	151	46	1	50	2	250	2	2	8	238	250

呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

火山ガラス比は、重液分離した軽鉱物分における砂粒を250粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、上述の3タイプに分類した。なお、火山ガラス比における「その他」は、主に石英および長石などの鉱物粒と変質等で同定の不可能な粒子を含む。

さらに火山ガラスと重鉱物の斜方輝石については、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

3. 結果

(1) テフラの検出同定

結果を表1に示す。2点の試料からは、ともに少量の火山ガラスと軽石が検出された。2号住の火山ガラスの主体は無色透明の軽石型であるが、灰緑色を呈する軽石型火山ガラスも混在する。6号土坑の火山ガラスも無色透明の軽石型が主体をなすが、極めて微量の無色透明のバブル型も含まれる。

軽石の特徴は、2点の試料ともにほぼ同様であり、白色を呈し、発泡は良好またはやや良好である。ただし、最大粒径には試料間で差があり、2号住は約1.8mm、35号土坑は約4.0mmである。

(2) 重鉱物・火山ガラス比分析・屈折率測定

結果を表2、図1に示す。2点の試料の重鉱物組成はともに、斜方輝石が最も多く、60%程度を占め、次いで単斜輝石と不透明鉱物がともに20%程度を占める。また、2点の試料ともに極めて微量の角閃石も含まれる。

火山ガラス比は、2号住では少量の中間型と軽石型が含まれ、6号土坑では少量の軽石型と微量の

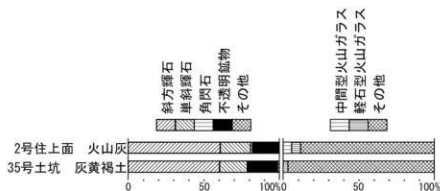


図1. 重鉱物組成および火山ガラス比

バブル型および中間型が含まれる。いずれの試料にも多量の軽石型が含まれ、極めて微量のバブル型も混在する。

各試料の屈折率測定結果を図2に示す。2号住の火山ガラスのレンジは広く、 n_1 .493-1.494の低屈折率のレンジ、 n_1 .501-1.508の中屈折率のレンジ、 n_1 .510-1.514の高屈折率のレンジに分けることができる。35号土坑の火山ガラスのレンジも広く、 n_1 .502-1.505の低屈折率のレンジ、 n_1 .507-1.514の中屈折率のレンジ、 n_1 .516-1.517の高屈折率のレンジに分けることができる。

2号住の斜方輝石の屈折率は、 γ 1.706-1.711のレンジを示し、モードは γ 1.708付近である。これに比べて6号土坑の斜方輝石は広いレンジを示し、 γ 1.698-1.706の低屈折率のレンジと γ 1.709-1.713の高屈折率のレンジとに分かれる。

4. 考 察

各試料は、火山ガラスや軽石といったテフラの本質物質を含むものの、その量は少量であることから、テフラの降下堆積物である可能性は低い。2点の試料の火山ガラスの屈折率と35号土坑の斜方輝石の屈折率に認められたように、幅広いレンジは、複数のテフラに由来する碎屑物が混在していることを示唆している。おそらく、各試料にはテフラの降下堆積物も含まれるであろうが、遺構を埋積する周囲の土壤中に元々含まれていたテフラに由来する碎屑物も混在していると考えられる。

十和田カルデラからおよそ東南東に約70kmという

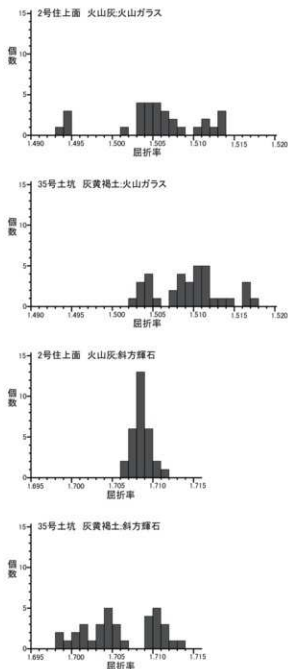


図2. 屈折率測定結果

サンニヤ I 遺跡の地理的位置を考慮すれば、周辺の後期更新世以降に形成された土壌中には十和田カルデラを給源とする多数のテフラが混交していると考えられる。今回の分析で検出された砕屑物の中で、由来するテフラを特定できるものとしては 2 号住の灰緑色を呈する軽石型火山ガラスがあげられる。このような特徴を有する火山ガラスは、平安時代の AD915 年に噴出した十和田 a テフラ (To-a) の上部火山灰を特徴づけるものとされ、nI.495-1.502 という低い屈折率もその特徴とされている (町田ほか, 1981)。2 号住の火山ガラスでもほぼこの低屈折率に相当する火山ガラスが検出されていることから、2 号住の火山ガラス中には To-a に由来する火山ガラスが含まれていることはほぼ確実である。その場合、町田・新井 (2003) に記載されている To-a の火山ガラスの屈折率の値も参照すれば、2 号住の中屈折率の火山ガラスも To-a に由来する可能性が高いと考えられる。

2 号住の高屈折率の火山ガラスについては、その値から、十和田中掘テフラ (To-Cu: 早川, 1983; Hayakawa, 1985) に由来する可能性がある。To-Cu の噴出年代は、暦年で 6, 200 年前 (工藤・佐々木, 2007) とされていることから、遺構周囲の土壌中に元々含まれていたものと考えられる。

なお、2 号住の重鉱物組成では極めて微量ながらも角閃石が検出されている。角閃石は、十和田カルデラを給源とするテフラの中では、十和田八戸テフラ (To-H: Hayakawa, 1985) に特徴的に含まれている鉱物である。したがって、2 号住の砕屑物の中には、To-H に由来する砕屑物も含まれている可能性がある。To-H の火山ガラスの屈折率は、2 号住の火山ガラスの中屈折率のレンジにほぼ重なることから、その中には上述した To-a の火山ガラスに加えて To-H に由来する火山ガラスも含まれている可能性がある。To-H の噴出年代は暦年で 1.5 万年前とされている (町田・新井, 2003) ことから、2 号住中に To-H に由来する火山ガラスが含まれているとしても、To-Cu と同様に元々周囲の土壌中に含まれていたものが遺構の埋積過程で覆土内に流れ込んだと考えられる。

6 号土坑の火山ガラスについては、低屈折率および中屈折率前半のレンジのものは To-a と To-H に由来し、中屈折率後半および高屈折率のレンジのものは To-Cu に由来すると考えられる。ただし、後述する斜方輝石の屈折率も考慮すれば、6 号土坑の高屈折率の火山ガラスには十和田南部テフラ (To-Nb) に由来するものも混在している可能性がある。

斜方輝石の屈折率については、町田・新井 (2003) の記載を参照すれば、2 号住の値は火山ガラスから指摘された To-a と To-Cu および To-H の 3 つのテフラに由来すると考えてよい。6 号土坑の斜方輝石は、2 号住の斜方輝石の屈折率とはレンジがずれていることから 2 号住の斜方輝石が由来するテフラとは異なるテフラに由来する可能性もある。町田・新井 (2003) を参照すれば、低屈折率のものは十和田ノ倉テフラに、高屈折率のものは十和田南部テフラにそれぞれ由来する可能性がある。これらのテフラの噴出年代はおよそ 9, 000 ~ 13, 000 年前頃とされているから (町田・新井, 2003)、これらのテフラに由来する斜方輝石も、元々周囲の土壌中に含まれていたものと考えられる。

ここで、遺構の年代に関わる考察をしてみると、各遺構ともに、覆土上部に To-a に由来する砕屑物が含まれていることから、10 世紀頃には、両遺構とも埋積がかなり進行していたと考えられる。このことは 2 号住居跡が縄文時代後期初頭とする所見と矛盾するものではないが、特にその年代を支持しているわけでもない。一方、時期不明とされた 6 号土坑については、その構築年代は新しくとも 10 世紀初頭以前と推定されるが、それ以上の詳細な時期については現時点では不明である。

引用文献

古澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別, 地質学雑誌, 101, 123-133.

早川由紀夫, 1983, 十和田火山中散テフラ層の分布、粒度組成、年代、火山第2集, 28, 263-273.

Hayakawa, Y., 1985, Pyroclastic Geology of Towada Volcano. Bulletin of The Earthquake Research Institute University of Tokyo, vol. 60, 507-592.

小池一之・田村俊和・鎮西清高・宮城豊彦編, 2005, 日本の地形3 東北, 東京大学出版会, 355p.

工藤 崇・佐々木 寿, 2007, 十和田火山後カルデラ期噴出物の高精度噴火史編年, 地学雑誌, 116, 653-663.

町田 洋・新井房夫, 2003, 新編 火山灰アトラス, 東京大学出版会, 336p.

町田 洋・新井房夫・森脇 広, 1981, 日本海を渡ってきたテフラ, 科学, 51, 562-569.

町田 洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦, 1984, テフラと日本考古学—考古学研究と関連するテフラのカタログ—, 渡辺直経(編) 古文化財に関する保存科学と人文・自然科学, 同朋舎, 865-928.

Ⅶ 総 括

サンニヤⅠ遺跡の発掘調査の結果、縄文時代後期初頭の堅穴住居跡及び土坑と縄文時代の溝状陥し穴状遺構群、古代の遺構を確認した。

(1) 堅穴住居跡・貯蔵穴

縄文時代後期初頭の堅穴住居跡は、川尻川を臨む舌状丘陵突端において4棟検出した。1・2・3号堅穴住居跡は重複せず、出土遺物・石囲炉の形状から同時期存在と考えられる。3・4号堅穴住居跡は重複関係が認められ、サンニヤⅠ遺跡では少なくとも2時期にわたって集落が営まれたと考えられる。

1～3号堅穴住居跡の石囲炉はいずれも「コ」の字形を呈している。類例として洋野町西平内Ⅰ遺跡(岩手埋文2017)、田野畑村浜岩泉Ⅲ遺跡(岩手埋文2016b)、滝沢市湯舟沢遺跡(滝沢村1986)、青森県外ヶ浜町間沢遺跡(青森埋文1986)等広域に認められ、時期も共通する。堅穴住居跡に隣接する地点には貯蔵穴を検出した。1号堅穴住居跡には2号土坑、2・3号堅穴住居跡には1号土坑に近い。出土土器も近似しており、同時期の組み合わせが想定できる。

後期初頭の同時期、サンニヤⅠ遺跡から北西に約2.5km地点には西平内Ⅰ遺跡がある(岩手埋文2017)。西平内Ⅰ遺跡では後期初頭～前葉の堅穴住居跡5棟が検出されている。標高61～62m付近の白前段丘上に構築されており、サンニヤⅠ遺跡より約10m高い地点に立地している。西平内Ⅰ遺跡では堅穴住居跡の構築・廃棄後に大規模な配石遺構が構築されたと報告されており(岩手埋文2017)、今後、サンニヤⅠ遺跡後期初頭集落は、洋野町内の後期初頭～前葉の点在する集落と西平内Ⅰ遺跡配石遺構の関係について検討する材料の一つになると考えられる。

(2) 陥し穴状遺構

縄文時代後期においては、狩猟の場としても使われていたと考えられる。陥し穴状遺構は27基認められ、南接する平成27年度サンニヤ遺跡調査区では20基(岩手埋文2016a)、東接する岩手県生涯学習文化課調査区では7基、川尻川を挟んで対岸に立地する南川尻遺跡では11基調査されている(岩手埋文2015)。川尻川を約400m上流にさかのぼったサンニヤⅢ遺跡においても39基検出されており(平成28年度末現在)、川尻川一帯で狩猟が行われていたと考えられる。陥し穴状遺構は大部分が溝状の形態で、このような溝状の陥し穴状遺構は縄文時代後期前葉以降の可能性が指摘されている(瀬川1981)。サンニヤⅠ遺跡の陥し穴状遺構は、川尻川から丘陵部に着てくる動物の動きに合わせた配置(第6図:1・9・2・8・10・22号陥し穴状遺構、11・3・7・6号陥し穴状遺構)が認められる。

サンニヤⅠ遺跡は、後期初頭においては貯蔵穴を備えた定住集落域として使用されており、同じ空間で組織的狩猟が行われたとは考え難い。陥し穴状遺構と堅穴住居跡・貯蔵穴に重複関係がないため確証はないが、狩猟の場として使用されたのは後期前葉以降の可能性がある。サンニヤⅠ遺跡から川尻川の対岸に目視で確認できる南川尻遺跡では、陥し穴状遺構の他、後期前葉(S102)・後葉(S101)の堅穴住居跡各1棟が検出されている(岩手埋文2015)。後葉の堅穴住居は小規模で柱穴はなく、炉跡は石囲炉ではない。出土している土器は煤付着のない深鉢・製塩土器・完形の注口付土器で鉢が欠落するなど、生活感に乏しく、遺物は床面西側・陥し穴状遺構が検出されている側にまとまる。周辺からはこれ以外に後期後葉の堅穴住居跡等は見つかっていない。周辺の陥し穴状遺構の使用・管理には組

織的な動きがあるはずであり、陥し穴状遺構監視小屋の可能性を考えたが、陥し穴状遺構1基(SKT09)と重複しており(後期後葉住居跡の方が新しい)、解釈が成り立たない。しかし、この切り合い関係によって、周辺で多数検出されている陥し穴状遺構の時期は、後期初頭以降後期後葉以前という可能性があり得る。堅穴住居跡との切り合いから後期初頭～前葉の可能性があるが、集落域と狩猟域が近接することをどのように解釈するかなど、洋野町内で出土事例の少ない後期中葉の可能性を含め、今後、洋野町地区で多数調査されている陥し穴状遺構を集成し、検証しなくてはならない。

(3) 古代土坑

古代の遺跡では、縄文時代とは明らかに異なる堆積土・構造を呈する20号土坑・6号土坑がある。20号土坑は覆土中位から土師器片が出土しており、隣接する2号堅穴住居跡を被覆する火山灰再堆積土層が20号土坑上にも一部確認していた。また、6号土坑で検出した火山灰にも915年十和田A降下火山灰を含む火山灰再堆積層があり、この2基は古代の可能性が高い。遺構周辺及び調査区内からこれ以上の古代を示す物証はないものの、今後洋野町において古代の生産遺跡が発見される可能性は十分あり、注視すべき遺構と考える。

引用・参考文献

- 青森県教委 1979 『蛭沢遺跡』
- 青森県埋蔵文化財調査センター 1986 『今津遺跡・間沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書95
- 青森県教委 1996 『小牧野遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第30集
- 石川日出志 2005 『関東・東北弥生土器と北海道縄文土器の広域編年』
- 今井富士雄・磯崎正彦 1968 『岩木山』
- 岩手県教委 1979 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書1』岩手県文化財調査報告書第31集
- 岩手理文 2001 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩理文報第357集
- 岩手理文 2015 「(1)南川尻遺跡」『平成26年度発掘調査報告書』岩理文報第647集
- 岩手理文 2016 a 「(1)サンニヤ遺跡」『平成27年度発掘調査報告書』岩理文報第661集
- 岩手理文 2016 b 「(1)浜岩田遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第655集
- 岩手理文 2017 『西平内1遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集
- 榎本剛治 2005 「秋田県における湯舟沢A式土器の検討」『北奥の考古学』
- 榎本剛治 2008 「十腰内1式土器」『総覧縄文土器』
- 大森司 統 2003 「渡島半島の縄文時代後期前葉」『東北・北海道の十腰内1式再検討』海峽土器編年研究会
- 大森司 統 2007 「北日本の陥し穴集」『縄文時代の考古学5 なりわい』
- 葛西 勲 1979 「十腰内1式土器の編年の細分」『北奥古代文化』11
- 葛西 勲 2002 『西葬土器棺墓の研究—縄文時代の洗骨葬—』
- 金子昭彦 1999 「東北地方後期前半」『縄文時代』第10号
- 倉石村教委 1996 『薬師前遺跡 縄文時代後期集合改葬土器棺墓調査』
- 児玉大成 1999 「小牧野遺跡における環状列石の構築時期」『青森県考古学』11
- 児玉大成 2003 「小牧野遺跡における縄文後期前半の土器編年」『東北・北海道の十腰内1式再検討』海峽土器編年研究会
- 鈴木克彦 1998 「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究4—十腰内1式と直前型式の研究—」
『縄文時代』9
- 鈴木克彦 2000 「岩手、秋田県北部の後期初頭土器の編年—湯舟沢A式の設定と提唱」『岩手考古学』第12号

- 鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』
- 瀬川司男 1981 「陥し穴状遺構について」『紀要1』『鹿岩手県埋蔵文化財センター』
- 高木 晃 1995 「岩手県の縄文後期初頭土器群の一樣相」『紀要XV』『鹿岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター』
- 滝沢村教委 1986 『湯舟沢遺跡』第1分冊・第2分冊
- 成田滋彦 1989 「入江・十腰内式土器様式」『縄文土器大観』4
- 洋野町教委 2013 『平内II遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 本間 宏 1987 「縄文時代後期初頭土器群の研究(1)－東北地方北部を中心に－」『よねしろ考古』3
- 盛岡市教委 1995 『大葛遺跡第1次発掘調査報告書』

写 真 图 版



遺跡遠景（東上空から）



遺跡全景

写真図版 1 空から見た遺跡



1号壁穴住居跡 全景（北から）



1号壁穴住居跡 断面（南から）



1号壁穴住居跡 断面（西から）



1号竪穴住居跡炉 全景（東から）



1号竪穴住居跡炉 断面（西から）



1号竪穴住居跡 遺物出土（北から）



1号竪穴住居跡炉 断面（南から）



2号竪穴住居跡 全景（北西から）



2号竪穴住居 断面 (西から)



2号竪穴住居跡 断面 (北西から)



2号竪穴住居跡炉 全景 (北西から)



2号竪穴住居跡炉 断面 (北西から)



2号竪穴住居跡 遺物出土 (北西から)



2号竪穴住居跡炉 断面 (北から)



3号竪穴住居跡 全景（北西から）



3号竪穴住居跡 断面（西から）



3号竪穴住居跡 断面（南西から）

写真図版5 3号竪穴住居跡（1）



3号竪穴住居跡 全景 (西から)



3号竪穴住居跡 断面 (西から)



3号竪穴住居跡 遺物断面 (北から)



3号竪穴住居跡 断面 (北から)



3号竪穴住居跡 遺物出土 (北から)



4号壁穴住居跡 全景（東から）



4号壁穴住居跡 断面（西から）



4号壁穴住居跡 断面（北から）



4号壁穴住居跡 断面（東から）

写真図版 7 4号壁穴住居跡



1号陥し穴状遺構 全景 (西から)



1号陥し穴状遺構 断面 (西から)



2号陥し穴状遺構 全景 (西から)



2号陥し穴状遺構 断面 (西から)



3号陥し穴状遺構 全景 (東から)



3号陥し穴状遺構 断面 (東から)



4号陥し穴状遺構 全景 (西から)



4号陥し穴状遺構 断面 (西から)



5号陥し穴状遺構 全景（北から）



5号陥し穴状遺構 断面（北から）



6号陥し穴状遺構 全景（北西から）



6号陥し穴状遺構 断面（北西から）



7号陥し穴状遺構 全景（南東から）



7号陥し穴状遺構 断面（北西から）



8号陥し穴状遺構 全景（西から）



8号陥し穴状遺構 断面（西から）

写真図版9 5～8号陥し穴状遺構



9号陥し穴状遺構 全景（西から）



9号陥し穴状遺構 断面（西から）



10号陥し穴状遺構 全景（東から）



10号陥し穴状遺構 断面（東から）



11号陥し穴状遺構 全景（西から）



11号陥し穴状遺構 断面（西から）



12号陥し穴状遺構 全景（西から）



12号陥し穴状遺構 断面（西から）



13号陥し穴状遺構 全景（南西から）



13号陥し穴状遺構 断面（南西から）



14号陥し穴状遺構 全景（北から）



14号陥し穴状遺構 断面（北から）



15号陥し穴状遺構 全景（北から）



15号陥し穴状遺構 断面（北から）



16号陥し穴状遺構 全景（南西から）



16号陥し穴状遺構 断面（南西から）



17号陥し穴状遺構 全景（南西から）



17号陥し穴状遺構 断面（南西から）



18号陥し穴状遺構 全景（南から）



18号陥し穴状遺構 断面（南から）



19号陥し穴状遺構 全景（南から）



19号陥し穴状遺構 断面（南から）



20号陥し穴状遺構 全景（北西から）



20号陥し穴状遺構 断面（北西から）



21号陥し穴状遺構 全景（南東から）



21号陥し穴状遺構 断面（南東から）



22号陥し穴状遺構 全景（東から）



22号陥し穴状遺構 断面（東から）



23号陥し穴状遺構 全景（北東から）



23号陥し穴状遺構 断面（南西から）



24号陥し穴状遺構 全景（西から）



24号陥し穴状遺構 断面（西から）



25号陥し穴状遺構 全景（北東から）



25号陥し穴状遺構 断面（北東から）



26号陥し穴状遺構 全景（南から）



26号陥し穴状遺構 断面（南から）



27号陥し穴状遺構 全景（西から）



27号陥し穴状遺構 断面（西から）



作業風景



作業風景



1号土坑 全景 (南から)



1号土坑 断面 (南から)



2号土坑 全景 (北から)



2号土坑 断面 (北から)



3号土坑 全景 (西から)



3号土坑 断面 (西から)



4号土坑 全景 (南から)



4号土坑 断面 (南から)



5号土坑 全景（北西から）



5号土坑 断面（北西から）



6号土坑 全景（北から）



6号土坑 断面（北から）



7号土坑 全景（北から）



7号土坑 断面（北から）



8号土坑 全景（北東から）



8号土坑 断面（北東から）



9号土坑 全景（北から）



9号土坑 断面（北から）



1号焼土 全景（北東から）



1号焼土 断面（北から）



2号焼土 全景（北東から）



2号焼土 断面（北から）



3号焼土 全景（北から）



3号焼土 断面（西から）



4号焼土 全景（北から）



4号焼土 断面（北から）



5号焼土 全景（東から）



5号焼土 断面（南から）



6号焼土 全景（北東から）



6号焼土 断面（北から）

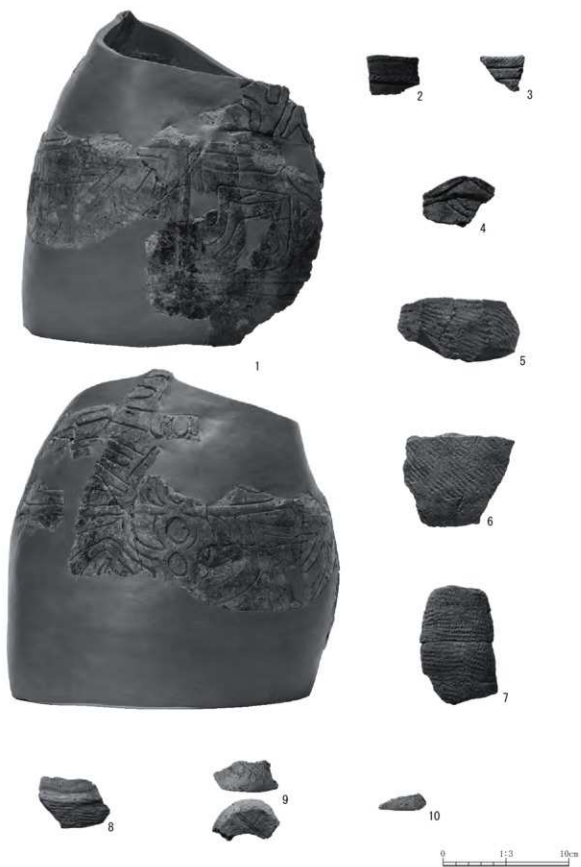


7号焼土 全景（北から）



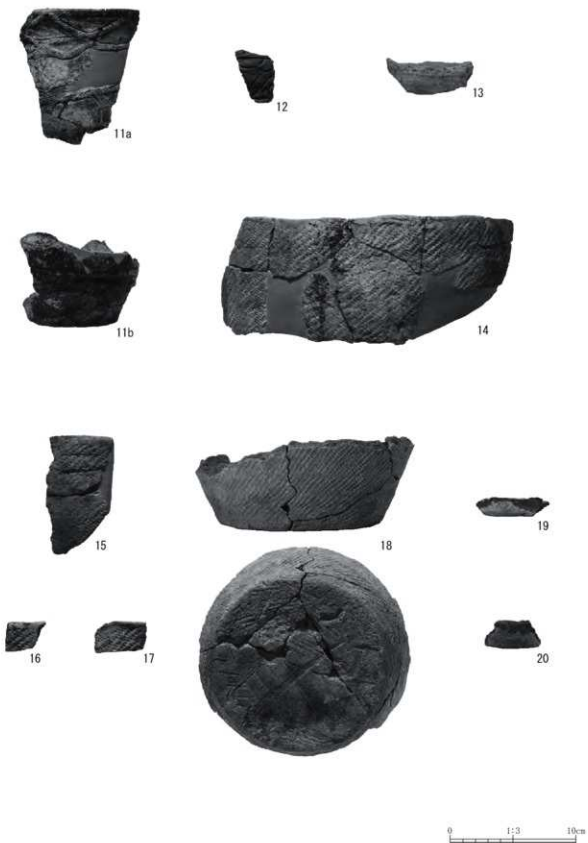
7号焼土 断面（北から）

1号竖穴住居跡



写真図版19 1号竖穴住居跡出土土器

2号竖穴住居跡



写真図版20 2号竖穴住居跡出土土器

3号竖穴住居跡



21



22



23



24



写真図版21 3号竖穴住居跡出土土器

4号竪穴住居跡



10号陥し穴状遺構



19号陥し穴状遺構



1号土坑



2号土坑



3号土坑



7号土坑



8号土坑



9号土坑



1Aグリッド



1Bグリッド



写真図版23 8・9号土坑、1A・1Bグリッド出土土器

2Aグリッド

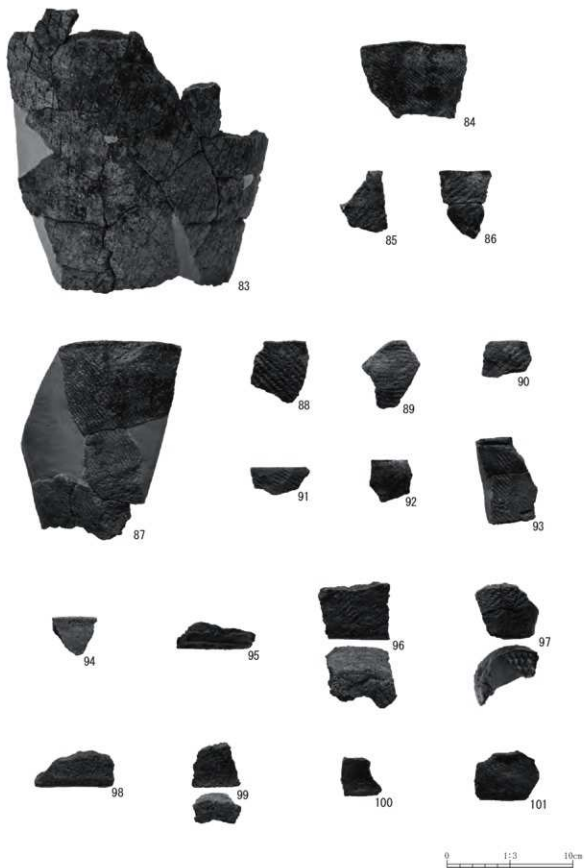


2Bグリッド



写真図版24 2A・2Bグリッド出土土器

2Bグリッド



写真図版25 2Bグリッド出土土器

2Bグリッド



2Cグリッド



2Cグリッド



3Bグリッド



3Cグリッド



写真図版27 2C・3B・3Cグリッド出土土器

4 B グリッド



137



138



139



140

4 C グリッド



141



142



143



144



145



146



147



148



149



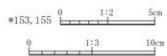
150



1号竖穴住居跡



2号竖穴住居跡



写真図版29 1・2号竖穴住居跡出土石器

3号竖穴住居跡



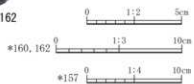
15号陥し穴状遺構



19号陥し穴状遺構



1号土坑



写真図版 30 3号竖穴住居跡、15・19号陥し穴状遺構、1号土坑出土石器

3号土坑



163



164



165



166



167



168



169



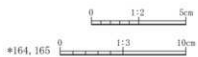
170



171



172



写真图版31 3号土坑、遺構外出土石器(1)





178



179



180

181





2号竖穴住居跡



1号土坑



報告書抄録

ふりがな	さんにや1いせきはっくつちようさほうこくしょ							
書名	サンニヤ1遺跡発掘調査報告書							
副書名	三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第687集							
編著者名	八木勝枝・森 裕樹・佐々木あゆみ							
編集機関	(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地							
発行年月日	平成30年3月9日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積	調査原因
サンニヤ1遺跡	いわてけんぐわんていふくちのちゆうぶ 岩手県九戸郡洋野町 ふかやの 25-1 種市第25地割33-1	03507	1F48-2128	40度 24分 62秒	141度 42分 1秒	2016.07.04 ～ 2016.10.01	4,400㎡	三陸沿岸道路建設 事業関連発掘調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
サンニヤ1遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 4棟 陥し穴状遺構 27基 土坑 9基 焼土遺構 7基	縄文土器、石器、鐔形 土製品				
要約	縄文時代後期初頭の竪穴住居跡4棟及び溝状の陥し穴状遺構27基を主体とする遺跡である。竪穴住居跡は重複関係が認められるものがあり、集落は2時期にわたって営まれたと考えられる。陥し穴状遺構は大部分が溝状の形態で、川尻川から上ってくる動物の動きに合わせた配置が認められる。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第687集

サンニヤ I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成30年3月2日

発行 平成30年3月9日

- 編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019)638-9001
- 発行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
〒027-0029 岩手県宮古市藤の川4番1号
電話 (0193)62-1711
- (公財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電話 (019)654-2235
- 印刷 株式会社 光文社
〒020-0106 岩手県盛岡市東松園3-12-1
電話 (019)661-3441代

